條約改正論

特別
ワ20
595

特
門 7 20
號 595
巻

贈
佐藤仁兄

7.20

春城拜

條約改正論

東洋学人 小野棒著

第一節 現行條約ノ性質ヲ論ス

仰テ天理ニ訴フルニ慷慨已ム能ハサルモノアリ俯シテ人情ニ質スニ悲憤耐ヘサルモノアリ之ヲ條約改正未成ノ事トス按スルニ條約改正ノ期ハ実ニ明治五年ノ時ニ在リ今ヲ距ル十有餘年其間甚タ短カリト謂フヘカラス然ルニ條約ノ改正未タ成ラス猶ホ其旧約ヲ存行シテ之ヲ改正スルヲ得サルモノハ抑モ是レ何ノ故ナル乎日本帝国ノ人民タルモノ誰レカ之カ慷慨シテ之ヲ悲憤セサルモノアラン哉然レモ我日本国民ノ熱意シテ其條約ヲ改正セント

欲スルモノハ唯リ其期日ノ約過セシカ為メノミニ
非ラス、其性質天理ニ背テ人情ニ反シ勢ヒ之ヲ改正
セサルヲ得サレハナリ故ニ縱ヒ其期日ニシテ未タ
到来セサルアルモ吾人將ニ理ニ訴ヘ情ニ質シ以テ
之レカ改正ヲ促サントス況ンヤ其期既ニ過キテ十
年ヲ餘シ猶ホ未タ之ヲ改メスシテ自カラ其不利ヲ
蒙ムル甚タ大ナル者ニ於テオ乎我日本国民ノ條約
ヲ改正セント欲スル実ニ偶然ニ非ラサルナリ
今マ顧ミテ條約ノ本質ヲ討査スルニ実ニ国ト国ト
ノ契約ナル耳故ニ契約ニ於ケル諸般ノ法理ハ悉ク
挙ケテ之ヲ国際ノ條約ニ適用スヘク甚タ差別ヲ其
間ニ為スヘカラサルナリ法理ヲ説ク者曰ク無知ノ
幼孤其性質ノ如何ヲ辨知セス老熟ノ成人ト契約ス
ルアルニ当テ幼孤之レカ為メ損害ヲ受クルアラハ
其契約ヲ取テ之ヲ無効ニ帰セシムルヲ得ルト惟フ
ニ斯ノ法理ニシテ之ヲ国際ノ條約ニ適用スルヲ得
ハ我カ條約ハ皆ナ無効ニ帰セシムル得ヘシ顧ミテ
昔日洋外ノ諸国ト夫ノ條約ヲ結ヒシ時ノ国情ヲ看
ルニ我カ日本人民ハ内封建割拠ノ治下ニ屈シテ自
カラ其身ニ主タルヲ得ス外海外通商ノ厳禁ニ制セ
ラレ廣ク域外ノ人ニ交ハルヲ得ス三百餘年ノ久シ
キ昌平無事ノ時ニ遭遇セシト雖モ遂ニ其效ヲ見ス
之カ為メ国運ノ進歩ヲ阻滯シ特ニ洋外ノ事情ニ至
テハ之ヲ知ル者無ク獨リ人民ノミ之ヲ知ラサルニ

非ラス夫ノ当勢ノ有司ト虽モ往々ニシテ之ヲ明知
スルモノナク所謂ル條約ハ何等ノ性質ヲ具スヘキ
モノニシテ万邦普行ノ通法ニ於テ国ト国トノ交際
ハ果シテ何等ノ性理慣例ニ依由シ何等ノ規矩順序
ヲ履行スヘキ歟ヲ知ラサリキ加之当時幕府ハ内訌
ノ迫ル所ト為リ其進退常ナラス剩サヘ各国ハ皆ナ
兵艦ヲ擁シテ其虚声ヲ張リ所謂ル要シテ之カ訂約
ヲ成就セシノ事実アリ故ニ其外国ト條約ヲ結フヤ
恰モ無知ノ幼孤老練ノ成人ニ逼迫セラレシムヲ得
ス其契約ヲ結ヒシカ如ク法理上其效ナキ識者ヲ待
タスシテ知ルヘキナリ
是ヲ以現行ノ條約ニシテ我カ帝国ノ権利ヲ妨碍シ
我カ国民ノ利益ヲ損害スルアラハ吾人ニ於テ永遠
之ヲ遵守スヘキモノニアラス又否ヤ之ヲ遵守スヘキ
ノ道理ナキヲ信ス今マ及覆シテ前言ノ謂ヲ云ヘハ
夫ノ條約ハ所謂ル無知ノ幼孤智能錬熟ノ成人ニ逼
迫セラレ一々成人ノ所求ニ依テ其契約ヲ結ヒ幼孤
之カ為メ巨多ノ損害ヲ受クル者ト均シク当時ノ日
本人民タル者及ヒ政府タル者夫ノ條約ヲ結フニ当
リテ亦タ其性質ノ如何ヲ知ラス又彼我所訂ノ條約
ハ果シテ獨立邦国ノ躰面ヲ破ルモノナルヲ知ラス
外人ノ逼迫ニ依テ已ムヲ得ス之ヲ結ヒタル者ナレ
ハ縦ヒ其ヲシテ我カ日本ニ一二ノ損害ヲ加フルナ
カラシムルモ我カ日本国民タル者自カラ安ンシテ

永遠ニ之ヲ遵守スヘキモノニ非ラス況ンヤ夫ノ條約ハ我カ帝国当有ノ権利ヲ減殺シ我カ国民庶享ノ利益ヲ損害スルモノニシテ不正理不公平ノ條約ナルニ於テハ我カ日本国民タルモノ甘シテ此條約ヲ永遠ニ遵守スルコト能ハス否ヤ改正ノ期ヲ経過スル既ニ十年ノ後ニ在テ之ヲ遵守スヘキノ道理ナキヲ信スルナリ

斯ノ如ク我カ日本人民ハ彼我現行ノ條約ヲ取テ不正理不公平ノ者トシ之ニ對シ無限無量ノ不満足ヲ抱クト雖モ敢テ之ヲ其口ニ藉キ現行ノ條約ヲ廃セント謂フニ非ラス夫ノ条約ハ饒ヒ上文所叙ノ事情ニ依リ甚正当ノ性質ヲ具ヘサル者ト為スモ元ト是レ獨立国ノ位置ニ立テ之ヲ結ヒタル者ナレハ吾人ヲシテ今ニ至テハヲ茲ニ藉キ其義務ヲ免レントスルカ如キ怯懦ノ心ヲ抱カス唯タ今ノ時ニ当テ其條約ノ不正理不公平ナルヲ発見シ其改正ノ期既ニ至ルヲ以テ早ク之ヲ改正シ其正道ニ復センコトヲ希フナリ而シテ其之ヲ希フヤ揭リ一二ノ日本人ニ止マラス実ニ三千五百餘万ノ生靈皆ナ挙テ斯希望心ヲ抱キ輿論一致シテ其改正ヲ希ヘリ然ルニ外洋ノ諸国殆ント此情ヲ顧ミサルモノヽ如ク猶ホ其改正ヲ止留スルハ抑々是レ何ノ為メ乎我カ日本人民ノ懷慨悲憤シテ自カラ已ム能ハサルハ決シテ故ナキニ非ラサルナリ

第二節　改正ノ六大主眼

現行條約ノ性質ハ実ニ前言ノ如シ而シテ其改正ヲ要スルハ世人ノ既ニ熟知スル所素ヨリ余ノ縷述ヲ待タサルナリ然レトモ改正ヲ要スルノ主眼ニ至テハ世論間々治外ノ法権ヲ撤去スルノ一案ト関税賦課ノ特権ヲ恢復スルノ一題ニ集マリ他ノ四大主眼ヲ忽畧スルカ如シ所謂ル他ノ四大主眼トハ一ニ曰ク諸国共同ノ條約ヲ嚴メ各国各自ニ之ヲ結フ二ニ曰ク修好ノ條規ト通商ノ條規ヲ分離ス三ニ曰ク周ク

ヲ與フルノ條項ヲ廃止ス四ニ曰ク條約有效ノ期ヲ立ツ是レナリ是ヲ以テ吾人カ今マ熟意シテ改正ヲ討索スヘキ者ハ実ニ六項ニシテ余ハ之ヲ称シテ改正ノ六大主眼ナリト謂ヘリ

第一外人ヲシテ其治外法権ヲ撤去セシメントスルハ所謂ル変例ノ治外法権ヲ撤去セシメントスルモノニシテ其正例ノ者ニ及ホスノ意ニ非ラス今マ按スルニ治外ノ法権ニ二箇ノ別類アリ一ハ欧米各土ノ間ニ行ハレ一ハ東方諸邦ニ存ス両国相待ノ敬礼トシテ特ニ三箇ノ種属ヲ敬重シ其ノ寄寓スル国土ノ法令ヲ以テ直ニ之ヲ約束懲治セス尚ホ其本土ノ制度ニ遵ハシムル者アリ欧米ノ人之ヲ称シテ治外ノ法権ト云フ即チ外邦ニ寄寓シテ尚ホ本土ノ法令ヲ行フノ謂ナリ三箇ノ種属トハ一ニ各土ノ君主及ヒ其ノ所率ノ臣僚ヲ云ヒ二ニ各土駐劄ノ公使及ヒ其

ノ屬官家眷ヲ云ヒ三ニ海兵ノ士官夫卒並ニ陸兵ノ
路ヲ其士ニ借リ通過スル者ヲ云ヒ共ニ公法ニ於テ
治外ノ法權ヲ特有スル者トセリ然リト雖モ其ノ特
權ヲ承認スルノ本意既ニ兩國相敬ノ情ニ出ルヲ以
テ此ノ三箇ノ種屬ト雖モ敢テ無限ノ全權ヲ有スト
云フニ非ラス必ス其々ノ畫限ヲ設ケ多少其權利ヲ
調停スル者アリ故ニ各士ノ君主ハ敬レテ至尊ト為
スト雖モ外邦ニ寄寓スルノ故ヲ以テ漫リニ君主ノ
權柄ヲ弄スルヲ得ス素ヨリ寓國ノ安寧ヲ攪亂ス可
カラサルナリ又其賊物ノ如キモ其身ニ從フ者ヲ除
クノ外一切ニ寓國ノ約束ヲ受ケシムルヲ例トス名
士ニ駐劄スル公使モ亦タ然リ平生無事ノ時ニ當テ
ハ之ヲ敬重シ殆ント君主ト均シカラシムルト雖モ
一旦其駐劄スル國土ノ安寧ヲ乱ルアラハ其政府タ
ル者直ニ捕縛シテ之ヲ乱治スルヲ得又其自ラ用ユ
ル者ヲ除クノ外ハ其齎ラス所ノ諸物一切関税ノ賦
課ヲ免ルヽヲ許サヽルナリ海兵ノ士卒モ亦然リ其
兵船ノ中ニ在ルニ当テハ碇泊国ノ法令能ク之ヲ約
束スルコト無シト雖モ其之ヲ去リ陸ニ在リテ某々
ノ罪ヲ犯スニ至テハ其政府直ニ之ヲ捕縛シ或ハ之
ヲ乱治スルヲ得又タ其兵船ノ如キモ碇泊国所定ノ
港則及ヒ衛生通規等ヲ遵守スルヲ要スルアリ陸兵
ノ路ヲ其士ニ借リ通過スル者モ復タ然リ其隊伍ヲ
整頓シ或ハ警戒シテ自カラ乱レサルニ当テハ其通

行スル国士ノ人之ヲ教シ之ヲ愛スルヲ其慣習ト為スト雖モ若シ其隊伍ヲ乱シ非法ノ所為アルニ至リテハ其通過スル国土ノ官吏或ハ捕縛シテ直ニ之ヲ乱治シ或ハ之ヲ其首将ニ告ケ之ヲ乱治セシムルヲ得ル上来ハ是レ欧米各土ノ間ニ行ハルヽ治外法権ノ大畧ニシテ其原ノ所以既ニ両国相交ノ礼ヲ重シスルニ在リ其制度自カラ交際ノ宜ヲ得素ヨリ間然スヘキモノニ非ラサル也今ヤ東方諸邦ニ存スル者ヲ見ルニ大ニ之ニ殊ナリ其之ヲ有ツ所ノ種属ハ夫ノ三者ニ止マラス周ク之ヲ通常ノ外人ニ及ホシ又タ之ヲ允ス所以ノ原旨ハ両国相敬ノ真情ニ出ツルニ非ラス別ニ由来スル所アルカ如シ顧ミテ治外

外法権ノ特例ヲ擴ケテ之ヲ通常ノ外人ニ及ホセシ起源ヲ繹ヌルニ実ニ土児格ニ始マルカ如シ始メ土児格ノ欧洲ヲ侵掠シ羅瑪東帝ヲ滅絶シテ君士但堡ニ都スルヤ其威東欧ニ振ヒ墺斯利其節ヲ屈シ城下ノ盟ヲ為スニ至ル当時土帝甚タ異宗門ノ徒ヲ保護スルヲ欲セス故ニ亟欧諸国ノ臣民ニシテ基督ノ教旨ヲ奉スルモノハ皆ナ本国ノ法律ヲ齎ラシテ之ヲ其訟獄ニ行フヲ得セシメ以テ其曲直ヲ判別スルノ具ト為サシメタリ是レ実ニ東方ニ行ハルヽ治外法権ノ濫觴ニシテ当時土帝ノ恩徳ニ出ツルカ如シ然レトモ沿襲ノ久シキ遂ニ其勢ヲ変シ土児格ノ勢力衰フルニ及ンテ治外ノ法権其性質ヲ一変シ元ト寄留

国ノ徳恩ニ出ルモノ今マ変シテ寄留国ヲ侮辱スル
ノ具ト為リ近時国際公法ヲ著ハス者大抵説キテ云
ラク欧米人ノ東方諸邦ニ航スルヤ皆ナ本土ノ律令
ト判官トヲ齎スアリ其然ル所以ノモノハ他ナシ東
方諸邦ノ律令制度皆ナ其宜ヲ失シ公法ノ通規ニ依
リ其身命財産ヲ付托スルヲ欲セサレハナリト蓋シ
又タ甚シト謂ツヘシ顧フニ其国土ノ恩徳ニ出テ治
外ノ法権ヲ行フアラシメハ其取捨我レニ在リ之ヲ
行ハシムルモ猶ホ或ハ可ナリ然レトモ彼此訂約ノ結
草ニ拠テ其権ヲ行ハシムルニ至テハ是レ寄留国ノ
躰面ヲ汚辱スルモノニシテ大ニ交際ノ情宜ヲ乱ル
者ト謂ハサルヲ得ス抑モ国ノ国タルニ二ノ品等ア

ル要ス一ニ曰ク境外ノ邦国ニ對シテ平等ノ位地ヲ
保チ自カラ其威力ヲ維持シ自在ニ其尚フ所ヲ行フ
ヲ得ルノ品等ナカラサルヘカラス二ニ曰ク自カラ
境内ノ政治ヲ為シ自カラ其法律ヲ制定シ以テ其土
ト其民トヲ寧ンシ曾テ他邦ノ干渉ヲ受ケサルノ品
等ナカラサルヘカラス此二ツノ品等アルヤ其国ヲ
シテ国タラシメ其土ト其民トヲ保有スルヲ得セシ
ム是ヲ以テ一国ヲ保有スルトハ此二箇ノ品等ヲ具
備スルノ称ニシテ一国ノ独立ヲ全フシ其安康ヲ保
ツヲ謂フナリ唯夫レ此ノ如シ故ニ有国ノ全権トハ
其邦国ノ獨立ヲ全フシ其安康ヲ保ツノ威権ヲ称シ
其国ヲシテ国タラシムルノ能カヲ謂フ也宇内聖嘗

テ曰ク萬邦往来ノ際邦国自主ノ位地ヲ保チ曾テ他
邦ノ犯ス所ト為ラス能ク独立シテ萬邦普行ノ事ヲ
行フアリ又其邦国ニシテ自カラ政ヲ為シ自カラ法
ヲ布キ以テ其土ト其民トヲ治メ曾テ他邦ノ阻擱ヲ
受ケサルアリ是レ斯ノ二ツノ威力実ニ一国ノ主權
ヲ成立スト其蓋シ此ニ在ル也是ヲ以テ国ニシテ自
カラ其独立ヲ維持セント欲セハ常ニ域外邦国ノ我
カ内政ニ干預スルヲ拒絶セサルヘカラス然ルニ今
マ域外ノ邦国来テ其法律ヲ我カ域内ニ行フアラシ
メハ是レ所謂ル境外ノ邦国ニ對シテ平等ノ位置ヲ
保ツヲ得ス又タ境内ノ政治ニ向テ他邦ノ干涉ヲ受
クルモノニシテ成ク国ノ国タル品等ヲ亡失スル モ

ノタルヲ免レヌ其国土ノ躰面ニ於ケル係ル所甚タ
少ナラサルナリ是レ我カ日本人民ノ熟意シテ治
外法權ヲ撤去セシメント欲スル所以ニシテ其情ノ
切ナル筆言ノ能ク盡ス所ニ非ラサルナリ
第二関税賦課ノ全權ヲ収メテ之ヲ我ニ恢復セント
スルハ一ハ以テ我カ独立国ノ躰面ヲ全フシ一ハ以
テ我カ内国ノ生產ヲ富殖セントスルニ因ル既ニ
前段ニ論スルカ如ク自カラ其法律ヲ立テ之ヲ其域
内ニ布キ域内ノ民ヲシテ之ヲ遵奉セシムルハ独立
邦国当有ノ權カナリ然ルヲ今マ條約ノ為メ其特權
ヲ妨碍セラレ自カラ其臣民ニ課税スルヲ得サルア
ラハ是レ独立国ノ躰面ヲ汚スモノニシテ自主ノ大

権ヲ失却スルモノト謂ハサルヲ得ス況ンヤ我ニシ
テ関税賦課ノ全権ヲ有セサルノ一事ハ大ニ我邦生
産ノ発達ヲ妨碍シ其不利甚タ少ナラサルノ実ア
リ今顧ミテ改米各土ノ制ヲ按スルニ国土ノ会計ハ
其国民ノ財産ニ就テ之カ直税ヲ収メ又タ自在ハ其
間税ヲ課シ之ヲ支辨スルヲ常トセリ而シテ其之ヲ
直税ニ多取スル乎将タ間税ニ多取スル乎ニ至テハ
各々其国情ニ依テ其宜ヲ異ニシ必スシモ之ヲ畫一
スルヲ得ス我邦ノ如キモ昔時海鎖ヲ撤セサルノ前
ニ当テハ国用自カラ寡ク唯リ之ヲ直税ニ取テ其事
ヲ畢ハリシト雖モ一タヒ維新ノ政ヲ布キ盛ニ各国
ト交際ヲ開クニ及ンテ内治改良ノ為メ外国交際ノ
為メ自カラ国用ノ数ヲ増シ之ヲ前日ニ比スレハ殆
ント拾倍ノ多キニ至レリ是レ元ト我カ日本人民ノ
自カラ文明ノ已ム可ラサルヲ知リ之ヲ致セシモノ
ナレハ素ヨリ外人ヲ怨ムヘキニ非ラスト雖モ若シ
是ノ時ニ当テ関税賦課ノ全権ヲ挙ケテ之ヲ我政府
ノ掌中ニ帰シ自在ニ其税率ヲ上下スルヲ得ハ必ス
適当ノ程度ニ於テ之ヲ賦課シ国用ノ一部ヲ裨補シ
以テ吾人直接ノ負擔ヲ軽減スルヲ得セシメ唯々如
何セン関税ノ改正ハ修好ノ條規ト共ニ訂約諸国ノ
商議ヲ経ヘキモノナルヲ以テ我カ日本帝国ノ政府
ハ独立邦国ノ当然ニ保有スヘキ収税ノ権利ヲ専ラ
ニスルヲ得ス為メニ不相應ノ低税ヲ収ムルノミナ

ラス又其々物品ノ如キハ当初外人ノ自用タルニ止マリシヲ以テ当時之ヲ無税品ノ中ニ編セシト雖モ今現ニ需用ヲ内地ニ得徹然タル高品タルモノアリ然レドモ猶ホ其旧ニ依由シテ之ニ課税スルヲ得ス常ニ無税ヲ以テ之ヲ輸入シ来ルカ為メ輸入物品ノ元價ニ比シテ収税ノ金額常ニ少数ノ地ニ居リ終ニ国用ノ百分三ヲ供スルニ過キサルナリ讀者ハ幸ニ下ノ計表ヲ通覧シテ各国関税ノ如何ヲ省ヨ其我カ邦ニ似サル啻ニ霄壤ノミナラサルヲ見ム

国名	歳入金額 四	海関税額 四	比例
日本	七九九八二九六九	二六一〇〇〇〇	三分一厘強
英国	四三五九八五〇〇〇	九六五〇〇〇〇〇	二割二分一厘強
米国	四〇〇〇〇〇〇〇	二一五〇〇〇〇〇	五割三分七厘強
佛蘭西		未詳	
日耳曼	一五二六五八一七五	八四七七四五七〇	五割五分五厘強
白耳義	五九九一四三五〇	四三四〇〇〇〇	七分二厘強
伊太利		未詳	
瑞士	九六七六四〇〇	三六五〇〇〇〇	三割七分七厘強
葡萄牙		未詳	
塡斯利	二二四〇七七八九五	一四九一〇二九〇	六分六厘強
丁抹		未詳	
和蘭	四四七五八八四五	一九六二九三三	四分三厘強
是班牙	一五六五九九四四五	二三〇九一六〇〇	一割四分七厘強
魯西亜	三八五六〇八三二五	三七九〇五七一四	九分八厘強

瑞典	二一八七四九一〇	七六三八八八	三割四分九厘強
諾威	一二一六四四〇〇	五一六六六六	四割六分四厘強
孛漏生		未詳	

是ヲ以テ我カ日本政府ノ歳入ハ常ニ之ヲ内税ニ取リ不相應ニ内地ノ生業ニ課税セサルヲ得為メニ絶大異常ノ影響ヲ拿來シテ之ヲ我カ生産ノ上ニ及ホシ大ニ其繁殖ノ途ヲ阻絶シ吾人ヲシテ日本ヲ進メテ富実ノ一国ト為スノ望ヲ絶タシムルニ至レリ故ニ我カ日本国民ハ今其條約ヲ改正シ以テ収税ノ全権ヲ我ニ恢復シ我政府ニ在テ至当公平ノ税目ヲ定メ之ニ拠テ間税ノ収入ヲ増加シ以テ吾人ノ直接ニ重税ヲ擔フノ責ヲ軽クシ之ヲ移シテ之ヲ生産ノ繁殖ニ用ヒ以テ我カ富実ヲ將来ニ期スルアラントスヨシ独リ直接ニ我カ邦人ノ幸福ヲ増スノミナラス又タ間接ニ遍高諸国ノ利益ヲ繁殖スルハ其貿易ヲ盛ルヨシ蓋シ日本ニ在テ其生産ヲ致ス甚タ大ナルヲ知シニスルノ基ニシテ貿易ノ盛大ナルハ彼我ノ共ニ利益ヲ受クルモノナレハナリ是レ我カ日本人民ノ熟意シテ関税賦税ノ全権ヲ収メ之ヲ我ニ恢復セシト欲スル所以ニシテ其情ノ切ナル寧ロ前者ニ減セサルナリ

第三諸国共同ノ條約ヲ罷メ各国各自ニ之ヲ結ハントスルハ又我カ日本国民ノ熟意シテ冀望スル所ニシテ現在若クハ未来ニ在テ我カ外交ヲ因滑容易ナ

ラシムルノ手段実ニ斯一点ニ在ルカ如シ余ハ嘗テ外交論（其全文載セテ本篇ノ附録ニ在リ）ヲ公演シ名国異別ノ條約ヲ主張スル詳ナリ当時余ハ土耳格ノ其外交ヲ誤マレルヲ痛論シ遂ニ曰ク

顧ミテ土耳格ノ歴史ヲ看レハ其外交ノ宜キヲ失シ自ラ大計ヲ誤リシモノ一ニシテ足ラス其状ノ吊スヘキモノ誠ニ多フシ然レトモ外交難艱ノ端緒ヲ開キ国旗ノ朦朧国権ノ汚辱ヲシテ今日ノ極ニ至ラシメ到底之ヲ正スヲ得サルモノハ実ニ土児格ノ欧洲強国共同ノ干渉ヲ許シ自カラ国権ヲ辱シメシニ在リ来聽諸君ノ明知スルカ如ク土耳格ハ元ト欧亜ノ両洲ニ跨リタル強大ノ国ニシテ

夫ノ東羅瑪ヲ亡ホシテ君斯但堡ヲ占メ夫ノ雄也納ヲ囲テ城下ノ盟ヲナサシメシ蓋其勢甚タ大ナリ然ルニ彼レ甚タ外交ノ畧ヲ慎マス今ヲ去ル百八十五年即チ我東山天皇元録十一年ノ時ニ当テ英蘭二国ノ共同シテ魯土ノ講和ニ干渉スルヲ許セリ是レ欧洲強国ノ其共同ノ力ヲ以テ土児格ノ外交ニテ一セシ濫觴ニシテ爾後数々其憤例ヲ続キ文化九年ノ頃ニ及ンテ又タ仏蘭西墺地利共同ノカヲ得テ魯細亜ト講和セシヨリ以来欧洲強国ノ土児格ノ外交ニ干預スル一層ノ甚シキヲ致シ東邦ノ問議是ニ於テ乎起ル文政十年ノ頃ニ至テ英吉利仏蘭西魯細亜ノ共同シテ希臘ヲ助ケ土児

格ノ征討ヲ禁セシカ如キ又近時ニ及ンテ伯林ノ
大会議ヲ開キ塞耳亜ノ独立ヲ強迫セシカ如キ其
土児格帝国ノ国権ヲ辱シメ半月ノ国旗ヲ汚ス誠
ニ一ヒシテ足ラサルナリ顧フニ開脱曼帝国ノ大
土児格国民ノ多キ必ラス其汚辱ヲ憤ホリ其恢復
ヲ図ルモノアラン然レトモ之ヲ其始メニ慎マス一
時ノ苟安ヲ偷テ一タヒ欧洲強国共同ノ干渉ヲ許
シ之ヲ外交ニ関セシメタルヲ以テ大勢一タヒ
去テ又回ラスヘカラス埃及ノ乱アルヤ英佛忽
チ其兵艦ヲ艤ヒ希土ノ境界ヲ争フヤ墨澳俄カニ
欧洲ノ大會議ヲ促ス等土児格ノ死命一ニ欧洲強
国共同ノ手ニ帰シ又タ如何トモ為ス能ハス其運

命ノ危キ累邦モ亦當ナラサルナリ宜ナル哉半月
ノ国旗其光朦朧ニシテ土児格ノ国権其威微弱ナ
ルヤ顧フニ若シ当時土児格ノ政事家ヲシテ確然
守ル所ヲ知リ大ニ万世ノ利害ヲ計ルアリ其始メ
メニ当テ欧洲強国共同ノ干渉ヲ受ケス墨細亜ハ
墨細亜墺地利ハ墺地利英吉利ハ英吉利佛蘭西ハ
佛蘭西ト各自異別ニ其交際ヲ結ヒ彼此共同ノ関
係ヲ拒絶スルアラシメハ東邦ノ問議起ルニ由ナ
ク土児格ノ汚辱益シ今日ノ甚キヲ致サヽルヘシ
然ルヲ夫ノ徒之ヲ察セス壮撰ノ外交ヲ為シ一時
ノ苟安ヲ偷ミ万世ノ大計ヲ誤マリ以テ今日回ラ
スヘカラサルノ大弊ヲ来スニ至ル天下ノ人誰レ

カ之ヲ切痛悲憤セサランヤ

上来ハ是レ余カ土児格国民ノ為ニ其不幸ナルヲ吊ヒ以テ当時外交家ノ其政署ヲ失シ禍害ヲ後世子孫ニ遺レタルヲ責ムルモノナリ而シテ余ノ之ヲ吊慰シテ切痛悲憤ノ声ヲ発シ自カラ禁スルコト能ハサルモノハ抑モ何ソヤ土児格ハ是レ土児格人ノ土児格ナルノミ余レ今マ日本帝国ノ良民タルヲ辱フス殆ント土児格ノ盛衰浮沈ト相関セサルカ如シ然ルヲ今マ猶ホ切痛悲憤シ自カラ禁スルコト能ハサルモノハ甚故アルナリ

余ハ年壮ケシク侠気ヲ帯フ人ノ急アレハ常ニ憐レミ易シ今土児格ノ急ヲ憐ム蓋シ之ニ因ル否ナ決シテ然ルニアラサルナリ人ノ急ヲ見テ憐レムハ余ノ性ナリ然レトモ今日土児格ノ艱難ヲ見テ悲憤ノ心ヲ起シ之ヲ慷慨スル久シキモノハ敢テ任侠人ヲ憐レムノ意ニ出ツルニ非ラス蓋シ別ニ大ニ感スル所アルナリ満堂来聴ノ諸君否ナ大日本帝国ノ臣民ハ我カ外交ノ有様ヲ見テ如何ンノ感想ヲ抱ケル乎諸君ハ必ラス外交ノ近史ヲ託スルナラン当時幕府ハ如何ナル條約ヲ結ヘル乎其杜撰ニシテ国権ノ汚辱ヲ顧ミサルカ如キ諸君ノ既ニ憤ホリ既ニ怒ル所ニアラスヤ然レトモ余ヲ以テ之ヲ言ヘハ幕府ノ一時條目ノ趣旨ヲ誤マリ国権ヲ辱シメタルハ当時ノ事情ニ照シ猶ホ恕ス

ヘキ所アリ但タ安政初年ノ條約ニ及シテ英佛米
蘭共同ノ條約ヲ結ヒ之ヲ改正スルノ便利ヲ妨ク
ルモノニ至テハ余レ勢ヒ其罪ヲ鳴ラサヽルヲ得
ス是レ実ニ土児格ノ覆轍ニ陥リタルモノニシテ
苟モ之ヲ継續レテ之ヲ改ムルヲ知ラサレハ其極
ヤ旭日ノ旗章ヲシテ半月国旗ノ運命ヲ分タシメ
日本ヲシテ土児格ノ相續人タラシムルノ不祥ア
ルモ未タ知ルヘカラス余ハ日本ノ国民ナリ旭日
ノ旗章ヲ輝カサント欲スルモノナリ日本ノ国権
ヲ張ラント欲スルモノナリ焉ンソ能ク之ヲ見テ
自カラ慷慨悲憤シ私ニ期スル所ナカラサルヘケ
ンヤ是レ実ニ余カ土児格ノ外交史ヲ講シ忽チ悲

憤ノ情ヲ発シ自カラ禁スルコト能ハス切痛之ヲ
嘯々スル所以ナリ吁々幕府ヤ既ニ政米共同ノ條
約ヲ結ヒ以テ外交ノ略ヲ過テリ然レモ既往ノ事
ハ去レリ之ヲ追フモ及ハス況ンヤ幕府既ニ亡ヒ
テ其責ニ任スルモノアラス余ハ今甚タ其罪ヲ責
メサルヘシ然レモ此過誤ノ政策ヲ継續シテ之ヲ
改メス之ヲ再三三四スルニ至ラハ天下ノ大勢一
去レテ又回スヘカラス到処土児格ノ不祥ヲ避ケ
ント欲スルモ遂ニ得ヘカラサルニ至ルヘシ外交
ノ局面ニ当ルモノハ深ク其慎ヲ加ヘ勉メテ各国
共同ノ訂約ヲ改メ又テ各自異別ノ條約ト為シ豫
メ其禍源ヲ防カサルヘカラス又饒トモ土児格ノ

覆轍ニ隅ラシメサルモ各国ヲ共同シテ其條約ノ
改正ニ従事セハ或ハ善良ノ改正ヲ為スヲ得サル
ノ恐レアリ顧フニ各国ノ間各々其特種ノ利害ア
ラン而シテ英国ハ自カラ英国特種ノ利害アリ佛
蘭西ハ佛蘭西特種ノ利害アリ魯細亜ハ魯細亜特
種ノ利害アル等彼此互ニ相同シカラス惟フニ各
国ヲ別異シテ各自ニ其條約ヲ改正セハ特種ノ利
害特種ノ利害ヲ以テ相償フヲ得我国ニ於テ大ナ
ル弊害ヲ受クルコトナカルヘシ然レモ若シ各国
ヲ共同シテ其改正ニ従事セハ各国特種ノ利害ハ
相集テ一團ヲ為シ我カ日本ハ一国ヲ以テソノ積
弊ヲ受ケサルヲ得ス而シテ我カ求ムル所甲ニ害

ナキモ乙ニ不利アリテ全然其望ヲ全フスルヲ得
ス其極ヤ甲ニ議リ乙ニ議リ丙丁ニ議リ失フ所既
ニ多ク而シテ甲ノ許サントスル所乙之ヲ許ス
ヲ肯ンセス我之ヲ甲ニ失ヒ又之ヲ乙ニ失ヒ又之
ヲ丙丁ニ失ヒ我カ得ル所又少ナシ我カ失フ所既
ニ多クシテ我カ得ル所又少ナシ是レ果シテ善良
ノ改正ト云フヘキヤ余ハ寧ロ一挙シテ両失スル
モノト称スルモ之ヲ称シテ善良ノ改正ナリト云
フヲ得サルナリ惟フニ皆ナ是レ諸国ト共同シテ
條約ヲ結フノ流弊ニシテ各国異別ノ條約ニ出テ
サルノ罪ナラント
余今ニ至テ其言ノ誤マラサルヲ知ルナリ是レ我カ

日本國民ノ熱意シテ諸國共同ノ條約ヲ嚴メ各國各
自ニ之ヲ結ハントスル所以ニシテ又タ決シテ偶
然ニ非ラサルナリ

第四修好ノ條規ト通商ノ條規ヲ分離シ二者ヲ各別
セントスルハ條約ノ正道ニ復セントスルノ意ニ
出テ敢テ他故アルニ非ラサルナリ抑モ修好ノ條規
ハ彼此ノ間常ニ繼續シテ嘗テ變セス或ハ之ヲ百年
ニ存シ或ハ之ヲ千歲ニ傳フルモ未タ知ルヘカラス
彼我ノ間ニ在テ相殘フノ事アルニ非ラサラシメハ
永遠之ヲ繼續シテ變換スヘカラサルモノナリ之ニ
反シテ通商ノ條規ハ彼此貿易ノ事情ニ依テ時々真
空ヲ異ニシ嘗ニ之ヲ百年ニ傳フヘカラサルノミナ
ラス之ヲ十年ニ期スルモ猶ホ且ツ之ヲ能クセサル
ヲ知ル故ニ修好ノ條規ト通商ノ條規ハ自カラ其性
質ヲ殊ニシ素ヨリ彼此ヲ連接シテ之ヲ訂約スヘキ
モノニ非ラサルナリ然ルニ我カ日本ノ條約ハ修好
ノ條規ト通商ノ條規ヲ連接シ通商ノ條規ハ修好ノ
條規ニ隨伴スルヲ要スルヲ以テ自カラ我カ日本ノ
不利ヲ致シ特ニ関税ヲ改正スルノ難キカ如キ実ニ
茲ニ基クヲ見ル是レ我カ日本人民ノ熱意シテ其復
正ヲ討索スル所以ニシテ敢テ望ムヘカラサルノ事
ヲ望テ之ヲ嚮々スルニ非ラサルナリ

第五固ク殊典ヲ典フルノ條項ヲ廢止セントスル
ハ又決シテ非理ノ冀望ニ非ス抑モ條約ハ對手國ノ

位置ト彼我交際ノ如何トニ依テ其宜シキヲ殊ニシ
心ラスシモ之ヲ盡一スルヲ得ス否ナ彼是互ニ特種
ノ利益アルニ当テ其ノ特典ヲ彼ニ與ヘ以テ之ヲ其
ノ利益ニ換フルハ独立国ノ自処スヘキモノニシテ
敢テ妨クル所アルニアラス外ヨリ得テ干渉スヘキ
モノニアラサルナリ然ルニ我カ修好條規ノ中明ニ
殊典ヲ施シテ之ヲ甲一国ニ與フレハ必ス之ヲ及ホ
シテ乙ノ一国ニ與フヘキヲ約ス故ニ偶々甲国ニ與
フルニ特種ノ利益ヲ以テシ以テ我カ利ニ交換スル
アラハ乙国忽チ其條約ニ拠リ我ヲ利スルナクシテ
其特典ヲ求ムルニ至リ所謂ル殊典ノ実ナキニ至ル
是レ元ト修好ノ本則ニアラス寧ロ不正理ノ甚キ者
ト謂テ可ナリ（欧洲諸国條約ノ中特典均霑ノ目ナキ
ニ非ラス然レトモ其特典均霑ナルモノハ平等ニ関税
ヲ賦課シヲ甲乙ノ差別ナキヲ云ヒ大ニ我カ條約ニ
載スル特典均霑ノ目ト異ナレリ）況ンヤ斯種ノ約束
ハ間々敗国ノ勝国ニ對シ訂結スル者ニシテ元ト不
祥ノ條目ニ属ス是ヲ以テ我カ日本人民ハ斯類ノ條
項ヲ削除シ以テ其正道ニ復セントコトヲ望メリ
第六條約有效ノ期ヲ立テント欲スルハ又至当ノ希
望タリ既ニ論スルカ如ク通商ノ條規ハ時々之ヲ改
定スルヲ要シ又修好ノ条規ノ如キ元ト之ヲ永遠ニ
傳フルヲ期スルヲ遂ニ改定ノ要ナキヲ得ス故ニ條
約ニ就テ其有效ノ期ヲ立ツルハ人事必然ノ理ニシ

テ本来正当ノ事タリ然ルニ我カ條約ハ改定ノ期ヲ
示スニ止テ其條約有效ノ期ヲ立テス故ニ外邦ニシ
テ其改正ノ商議ヲ肯ンセサルハ何等ノ久シキニ亘
ルモ我猶ホ其旧約ヲ存行セサルヲ得ス其不利ノ大
ナル寧ロ謂フヘカラサルモノアリ惟フニ当時幕府
ノ條約ヲ訂結スルニ当テ改正ノ期ヲ示スノ條目ニ
更フルニ其條約有效ノ期限ヲ以テスルアラシメハ
現行ノ條約ハ明治五年ニ在テ既ニ業ニ無效ニ帰シ
我ヲシテ正当ノ條約ヲ結フノ便ヲ得セシメ彼ヲシ
テ早ク之ヲ肯ンスルヲ為サシメンナラン然ルニ当
時ノ謀茲ニ出テス以テ今日改正ノ難艱ヲ致セリ是
ヲ以テ我カ日本人民ハ亦後所訂ノ條約ニ就テ改正
ノ期ヲ示サス唯其有效ノ期ヲ立テ其期ニ至ラハ全
ク之ヲ廃止スルノ約ヲ立テンコトヲ望メリ

以上六大要目ハ吾人カ早晩ノ中ニ在テ其改正ヲ為
サントスルモノニシテ天理ニ照シ人情ニ質シ咸
ク非理ノ冀望ニ非ラサルヲ信スルナリ

第三節　改正商議ノ歴史

前節所叙ノ六大要目ハ吾人ノ熟意シテ之カ復正ヲ
討索スル所ナリ而シテ亦来彼我ノ政府ハ斯ノ六箇
ノ要目ニ就キ何等ノ商議ヲ開キシ乎吾人ノ常ニ聞
カントスル所ナリ然レトモ本来外交ノ事項ハ秘
密ヲ貴フヲ以テ其商議ノ如キハ局外ノ者之ヲ詳カ
ニスルヲ得ス吾人未タ之カ確報ヲ得サルナリ然シ

トモ化リ事隠レタルヨリ顕ハル、ハ莫シ是ヲ以テ
秘密ノ商議ト雖モ時ニ隨テ世ニ顕ハレ吾人ノ耳朶
ニ到リ吾人ノ瞳光ニ入ルモノアリ故ニ余今マ其ノ
断簡ヲ綴續シ以テ斯ノ一節ノ歴史ヲ編シ商議ノ変
遷セシ迹ヲ明カニセントス
我カ維新ノ政府ニ在テ條約改正ノ議ヲ起セシ実ニ
明治三年ノ秋ニ在リ当時大隈参議ハ夙ニ外交ノ宜
シキヲ失シ国家ノ不利甚タ大ナルヲ思ヒ朝ニ建議
シテ其期ニ及テ早ク之カ改正ヲ為サンコトヲ奏請
セリ是ニ於テ予廟議之ヲ改正スルノ意ヲ決シ遂ニ
明治四年十一月ニ及ンテ右大臣岩倉具視参議木戸
孝允大蔵卿大久保利通工部大輔伊藤博文外務少輔
山口尚芳ノ五人ヲ勅簡シテ特命全権大使ニ任シ訂
約諸国ニ前往セシムルニ至レリ然レトモ夫ノ大使
ハ直ニ條約改正ノ商議ヲ開クカ為メ之ヲ派遣セシ
モノニ非ス特ニ此ノ大使ヲ派遣シ其旧好ヲ尋テシ
メ以テ條約改正ノ地歩ヲ為サシメントセシカ如シ
当時余ハ米国ニ留学シ親シク大使在米ノ有様ヲ目
撃シ又タ我カ天皇ノ米国ニ寄御シ給ヒシ国書ヲ拝
讀スルヲ得タリ今マ其勅書ニ就キ重要ノ節目ヲ複
訳シ奉ランニ勅意畧ホ左ノ如キヲ覚フ
朕天佑ヲ得テ萬世一系ノ大統ヲ継キ北天位ニ昇
テ以来未タ使節ヲ派シテ之ヲ友邦ノ政府ニ到ラ
シメス然ルニ今ヤ其切要ナルヲ思フ依テ朕カ信

任ノ宰相右大臣正二位岩倉具視ヲ簡撰シテ特命
全権大使ト為シ更ニ参議従三位木戸孝允大蔵卿
従三位大久保利通工部大輔従四位伊藤博文外務
少輔従四位山口尚芳ヲ簡テ之ニ副タラシメ各其
全権ヲ持シ北米聯邦若クハ尓餘ノ政府ニ前往シ
朕カ友愛ノ意ヲ表シ其修好ヲ尋テ更ニ之ヲ擴ケ
又タ之ヲ堅クセシム今顧フニ條約改正ノ期ハ既
ニ迫テ一年有弱ノ時ニ在リ朕大ニ之ヲ改正シ我
国ヲシテ文明ノ諸国ト對頭ノ位置ヲ保タシメ其
権利ト其実益ヲ全フセンコトヲ思フ然レトモ朕
カ国土ノ文物制度大ニ外国ニ異ナレリ是ヲ以テ
朕直ニ條約改正ノ事ヲ成就スルヲ望マス唯タ方
サニ文明諸国ノ制度ヲ考ヘ其最モ朕カ国土ニ適
スルモノヲ撰ヒ之ヲ採テ之ヲ行ヒ徐ニ我カ政治
ト風俗ヲ改良シ以テ文明諸国ト平等ノ位置ヲ保
ツニ至ラシム是ヲ以テ朕今使節ヲ派シ聯邦政府
ニ就テ朕カ国土ノ事情ヲ露示シ我カ制度ヲ改良
スルノ手段ヲ商議セシム而シテ朕カ使節ニシテ
復命セハ朕将ニ條約改正ノ事ヲ撰思シ以テ朕カ
平生ノ望ヲ達セム
前文ハ唯是レ米国ニ賜ヒシ国書ノ複訳タルニ過ク
スト雖モ之ニ依テ当時大使ノ各国ニ齎ラセシ国書
ノ大要ヲ測知スルヲ得ヘク以テ大使派遣ノ勅旨ヲ
詳カニスルヲ得ム

顧フニ大使皈朝ノ後ニ在テ朝鮮征討ノ議起ラス隨テ内閣ノ交替ヲ致ス等ノ事ナカラシメハ條約ノ改正必ラス我カ政務ノ要ヲ右メ縱令之ヲ成就スルニ至ラシメサルモ必ラス明治六七年ノ間ニ在テ高議ノ端ヲ発セシナラン然ルニ朝鮮征討ノ議一タヒ敗レテ内閣ノ交替アルヤ内国漸ク多事ニ赴キ七年ノ始ニ当テ佐賀ノ乱アリ蹟テ又タ臺灣ノ役アリ其役末タ畢ラサルニ清国ノ事起リ又タ一段ノ多事ヲ加フ既ニシテ事平クト雖モ未タ一歳ナラスシテ又江華ノ争闘アリ日韓ノ和殆ント将サニ敗レントスヨ韓ノ修好漸ク成ルヤ又タ熊本山口等ノ乱アリ其乱終ニ平キ未タ三月ヲ出テサルニ又タ薩匪ノ乱アルニ遇フ是ヲ以テ條約改正ノ期既ニ至ルモ我カ政府之ニ及フニ遑ナク荏苒日月ヲ送リ殆ント五裘葛ヲ換ユルニ至レリ

然レトモ西隆ノ乱漸ク平キ内顧ノ憂稍々減スルニ及ンテ政府始メテ意ヲ外交ニ用フルヲ得タルカ如シ是ヲ以テ明治十一年八月ニ及ンテ吾人ハ横濱外語新聞ノ中ニ在テ新輸入税目ナルモノヲ見ルヲ得條約改正ノ高議漸ク其歩ヲ始メシヲ知レリ而シテ其税目ハ從價從量共ニ三割ヲ以テ其最高度ト為シ其目ハ実ニ左ノ如キヲ記セリ

輸入税考案

無税品

金銀地金
石炭
貨幣
肥料
製造セサル長毛短毛
舩艇
五分ヲ標準トスル従量税品
金鶏助質
阿仙茶
滲灰
製造シタル鉄
各種ノ穀類

鉛（製造及ヒ未製造トモ）
水銀
馬口鉄板
皮
錫
亜鉛（塊板）
鋼
銅
青銅
黄銅
白鑞
泊芙蓉

硝石
粉類
蝙蝠今ノ骨
白銅
繰綿
種々ノ分析器械
五分ノ従價税品
砒并ニ鎖
他ニ指名セサル茶料茶種
機械類
工用具
馬車等

一割ヲ標準トスル従量税品
樟脳
青靛（水土トモ）
麻布
木綿織物（綿天鵞絨ヲ除ク）
オルタラマリーン
木綿糸
苧
麻
毛
羽
一割ノ従價税品

他ニ指名セサル染料
他ニ指名セサル彩料
他ニ指名セサル木綿織物
木綿麻交織
紫染粉
一割五分ヲ標準トスル從量税品
鉄釘并銅釘
石炭油
窓硝子板
綿天鵞絨
綿羅紗
毛綿交織物

捻ヲ掛ケサル木綿
麻苧綫糸
一割五分ノ從價税品
捻ヲ掛ケタル木綿麻苧ノ綫糸
生牛皮
他ニ指名セサル釘
他ニ指名セサル毛織物
他ニ指名セサル毛布製造品
二割ヲ標準トスル從量税品
手拭
生糸
石硯

茶
茄菲
蝋燭
紙
毛
二割ノ従價税品
時計
熟皮
鏡
飲料
屑真綿
家具

二割五分ヲ標準トスル従量税品
沓足袋
繻袢
二割五分ノ従價税品
袂時計
絹物並交織物
提飾具
帽子
屑衣
硝子器
蝙蝠傘
三割ヲ標準トスル従量税品

煙草並巻烟草
砂糖（赤白トモ）
麥酒
葡萄酒
三割ノ従價税品
摺付木
珊瑚
兵器兵具（武具砲器碩九弾薬）
鎧甲
火薬
他ニ指名セサル酒料
禁制品

阿片
華氏ノ寒暖計百二十度以下ノ温度ニテ発
火スヘキ石炭油不良ナル藥品食料飲料
禁制シ得ヘキ品
時疫流行ノ地ヨリ輸送シタル畜類並ニ生
皮
兵器
火薬及ヒ一切ノ武具

然レトモ我カ政府ノ所考案ヲ出シ之ヲ訂約ノ諸国
ニ移シタルハ実ニ第三回ノ議ニ係ルカ如シ聞ク
カ如クンハ是ヨリ先キ我カ政府ハ訂約ノ諸国ニ對
シ治外ノ法権ヲ撤シ関税賦課ノ全権ヲ我ニ復シ独

五帝国ノ艅面ヲ全フセレコトヲ求メリト然ルニ各国政府之ヲ肯ンセス是ニ於テ乎政府一時ニ其望ヲ全フスルノ難キヲ知リサレク意ヲ枉ケテ其カヲ税権回復ノ一案ニ集メタルカ如シ余今顧ミテ明治十一年七月廿五日我カ駐米公使ノ米国政府ト商議決定シ翌年二月七日我カ天皇ノ批准ヲ得シ日米改定追加條約ヲ見ルニ実ニ左ノ十條ヲ以テ成ル

日本国皇帝陛下及亜米利加合衆国大統領ハ従来幸ニ両国間ニ現存スル所ノ親睦ナル交際ヲ維持センコトヲ希望シ且追加ノ約書ニ因テ廃棄シタル尚一層其交誼ヲ固クシ両国間ノ貿易ヲ擴張シ且堅実ナラシメントス其為メ雙方ニ於テ各自ノ全権委員ヲ選フ即チ日本国皇帝陛下ハ亜米利加合衆国ニ駐劄スル特命全権公使従四位勲三等吉田清成合衆国大統領ハ国務卿維廉馬矩斯威図椰窩「図」右隻方ノ全権委員ハ各其委任状ヲ相示シ雙方其確実正当ナルヲ識認シテ左ノ各條ヲ協議決定セリ

第一条　慶應二年五月十三日即チ西暦一千八百六十六年六月廿五日一方ハ日本国委員他ノ一方ハ亜米利加合衆国大貌利太泥亜佛蘭西和蘭ノ委員江戸ニ於テ調印シタル改税約書並ニ右約書中ニ載セタル輸出入品運上目録及借庫規則ハ日本ト合衆国トノ間ニ於テハ茲ニ之ヲ廃

棄シ而シテ現ニ其施行ヲ止ムルハ此約否ノ第十条ニ掲載スル約束実施ノ時ニ於テスヘシ又江戸ニ於テ取結ヒタル安政五年即チ西暦一千八百五十八年條約ノ中港海関税及諸税ノ諸規則ニ関スル條款並ニ右安政五年即チ西暦一千八百五十八年ノ條約ニ添ヘタル貿易章程モ悉皆之ヲ廃棄スヘシ

此約否実行ノ日ヨリ日本海関税並ニ其他ノ諸税ヲ自由ニ賦課シ及日本開港場外国貿易ニ関スル諸規則制定ノ権利ハ独リ日本政府ニ属スルコトヲ合衆国ハ識認スヘシ

第二条　然レトモ合衆国ヨリ日本ニ輸入スル諸物品ニ課スル税額ハ他ノ外国ヨリ輸入スル同種類ノ物品ニ課スルモノニ超過ス可カラス而シテ若日本政府ニ於テ其領地内ヘ或物品ノ輸入若クハ輸出ヲ禁止スルコトアルトキハ合衆国ノ産物船舶或ハ人民ニ對シ他ニ異ナル所ノ禁止ヲ為サヽル可シ

第三条　合衆国ハ日本ニ向テ輸出スル物品ニ輸出税ヲ課セサルヲ以テ此約否実施ノ後ハ日本ニ於テモ亦合衆国ヘ向ケ輸出スル物品ニ輸出税ヲ課セサルヘシ

第四条　安政五年即チ西暦一千八百五十八年ノ條約第六條第一節即チ最初ノ三句現存スル間

ハ右現存條約ノ違犯若タハ此約書ニ因テ日本政府ニ於テ時々制定スル海関税備庫及港ノ諸規則違犯ニ関スル没入品或ハ罰金ニ付日本政府ノ要求ハ悉ク合衆国領事裁判所ニ訴フ可シ而シテ該国領事ハ各訴訟ヲ公正ニ審按シ右條約及諸規則ノ條款ニ照ラシ之ヲ裁断ス可シ而シテ右没入品或ハ罰金ハ日本官員ニ交付スヘシ

第五条　日本沿海貿易統轄ノ権利ハ独リ日本政府ノミニ属スル者タルコトハ固ヨリ双方ノ識認スル所タルヲ以テ此ニ之ヲ明言ス

第六条　然レトモ日本開港場ニ来着スル合衆国ノ船舶ハ日本海関税則ニ随ヒ其船載スル物品中幾部分タリトモ其望ニ任セ陸揚スルヲ得ヘシ而シテ其船舶ハ右陸揚シテ積荷目録中ニ其事由ヲ記載シタル部分ノ外ハ輸入税其他一切ノ諸税ヲ拂ハスシテ其残餘ノ物品ヲ載セ出港スルヲ得ヘシ右船舶ハ其後他ノ日本諸開港場ニ航行シ其望ニ依リ残リノ物品ヲ右諸開港場ニ陸揚スルヲ得ヘシ然レトモ凡テ船舶ノミニ對シ課スル諸税諸賃ハ最初其積荷ノ幾部分ヲ陸揚スル港ニノミ於テ拂フヘシ而シテ該船舶其後引續キ航海シテ到ル所ノ港ニ於テハ其地方港内諸税ノミヲ入港ノ為メニ拂フヘシ

第七条　合衆国ハ上文第一條ニ約スルカ如ク日本輸出入品運上目録運上規則及ヒ其他ノ諸規則ニ関シ譲與スル所アルヲ以テ日本政府ハ互相ノ理ニ基キ尤ノ事ヲ譲與ス即チ従前開港場ノ外ニ更ニ二港ヲ此約書実施ノ日ヨリ合衆国人民并ニ商船来住貿易ノ為メニ開クヘシ

但シ二港中一港ハ下ノ関タルヘシ而シテ他ノ一港ハ北後雙方協議ノ上決定スヘシ

第八条　両国間ニ結ヘル安政五年即チ西暦一千八百五十八年ノ條約第五条ハ必用ナラスト認ムルヲ以テ右條款ハ此約書実施ノ日ヨリ廃棄スヘシ

第九条　従来両国間ニ結約シタル條約或ハ約書ノ條款中今茲ニ廃棄ヲ明揭セサルモノニシテ此約書ノ條疑ニ牴觸スルモノハ悉皆廃棄ス可シ且ツ此約書ハ両国間現存條約ノ一部分ト為ス可シ」又右條約中此約書ニ因テ変更若クハ廃棄セサル部分ノ重修并ニ此約書ノ重修ハ此後雙方ノ中ヨリ要求スルヲ得ヘシ又此約書并ニ此約書ニ因テ変更スル所ノ右條約ハ其全部或ハ其部分ノ重修ヲ為ス時ニ臨ミ廃止若クハ年限ヲ約定スル迄ハ引続キ之ヲ施行ス可シ

第十条　此約書ハ日本ト他ノ締盟各国ト現実此約書ト均シキ所ノ約書或ハ現存條約ノ重修ヲ

取結ヒ古現行ノ時ニ至リ実施スヘシ

北約書ハ批准ヲ要スルモノトス而シテ其交換ハ北約書調印ノ日ヨリ十五ケ月以内ニ成ル可ク速ニ華盛頓府ニ於テスヘシ

右ノ証トシテ上文記載ノ全権委員各自カラ其名ヲ署シ印ヲ鈐ス

華聖頓府ニ於テ明治十一年七月廿五日西暦一千八百七十八年七月廿五日

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ践タル日本皇帝

（御名）北書ヲ見ル有衆ニ宣示ス善良適亙ナル朕カ

維新燕椰窩図

吉田清成

特別ノ全権ヲ有セル特命全権公使吉田清成ヲ以テ千百七十八年七月廿五日華盛頓府ニ於テ日本国及合衆国ノ間ニ取結ヒシ條約ヲ朕親カラ閲覧点検セシニ能ク朕カ意ニ適シ更ニ間然スヘキナシ故ニ凡テ其約書條款ニ掲クル本趣ハ朕茲ニ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百廿九年明治十二年二月七日東京宮中ニ於テ親ラ名ヲ署シ玉ヲ鈐セシム

御名　国璽

奉勅　外務卿寺島宗則

是ニ因テ之ヲ観レハ政府当時ノ意向ハ専ラ収税権

ノ恢復ニ在テ治外法権ノ撤去ニ在ラサリシヲ推知スヘシ然レトモ亦後ノ実況ニ拠テ之ヲ推スニ芳二四ノ商議即チ収税権ヲ回復スルノ要求ハ唯リ米国政府ノミ之ヲ許諾シ亦餘ノ政府ハ之ヲ承諾セサリシヲ見ル(但タ十二年ノ春ニ及ンテ我カ政府ハ伊太利政府ニ照会シ日米改定條約ノ意ニ倣ヒ更ニ之ヲ擴充シ日伊改定條約ヲ結ハンコトヲ商議セシモ其議中ハニシテ罷ミタルカ如シ)是ニ於テ乎政府又其地歩ヲ譲リ更ニ上文ノ税目考案ヲ出シ関税ノ増加ヲ要求シタルカ如シ

北要求ハ我カ帝国ニ在テ愈々枉ケテ愈々退クモノニシテ其要ハ安政年間所約ノ税目(第四節輸入税沿革史ヲ参看スヘシ)ニ復セシニ過キス未タ吾人ノ望ヲ満因スルニ足ラスト雖モ外政府ノ非情偏頗ナル猶ホ其要求ニ應セス我カ日本人民ヲシテ殆ント憤懣耐ヘサラシムルニ至レリ

是ノ時ニ当テ外務卿ノ更替アリ新外務卿ハ條約ヲ改正スルヲ以テ其任トシ自カラ好ンテ斯任地ニ立チタルヲ以テ内外ノ衆庶ハ目ヲ括テ其ノ外交略如何ヲ観察シ其出ス所ニ注目セリ既ニシテ明治十三年ノ秋ニ至リ吾人ハ又濱港外諸新聞ニ拠テ改正條約考案ナルモノヲ見ルヲ得彷々新外務卿ノ手殷ヲ窺フヲ得タリ今マ外諸新聞ノ託載セシ所ノ者ヲ復シ其要領ヲ挙ケシニ其考案ハ修好條規及ヒ附録覚

昏并ニ通商條規等ノ区分ヲ立テ修好條規及ヒ附録ハ法権ニ関與スル條目頗ル多フク中ニ就キ最モ内外人民ノ意想ヲ鼓動セシモノハ日本ノ法律ニ在テ官府ニ対スル罪科ヲ犯シタル外人若クハ有罪ノ所業(全国又ハ一地方ニ於ケル違註罪ノ類ヲ包含ス)アル外人ハ禁獄二ケ月罰金五百円以上ニ当ル者ヲ除クノ外ハ總テ治外法権ノ特典ヲ蒙ムルヲ得ス直ニ日本政府ノ聽断ヲ経ヘシト謂フ又ル一項トス今其要領ニ拠テ之ヲ推スニ当時新外務卿ノ手段ハ治外法権ノ幾分ヲ撤去セシメ関税賦課ノ全権ヲ我レニ復セントセシモノヽ如ク其議頗ル治外ノ法権ニ渉リタルヲ見ルヘシ亦来二年改正ノ事成ラス遂ニ十五年ノ春ニ至テ我カ政府ハ東京駐在ノ各国公使ヲ外務省ニ請シ改正豫審会議ヲ開キタルカ如シ但タ其議事ヤ未タ公ニ属シ外ニ漏レス吾人未タ其如何ヲ了知スルヲ得ス然レトモ日来外人ノ間ニ傳唱スル所ヲ聞クニ左ノ八大要目ハ当時ノ議目ナリシカ如シ

第一　其初ニ当リテハ治外法権ヲ全廃セス又外国人ヲシテ日本ノ内地ニ在テ諸般ノ権利ヲ全有セシメサルヘシ是レ内外人民ノ利益ヲ思フカ為メナリ

第二　某々ノ時期例ヘハ五年乃至十年間ヲ定メ其年期中外国人ノ軽罪ハ日本裁判廳之ヲ審糺シ其

重罪ハ従前ノ如ク外国ノ裁判廳之ヲ審糺ス

第三　前條ノ年期中外国人ハ内地ヲ旅行シ若クハ高賣スルヲ得ヘシ然レトモ内地ニ住居シ及ヒ内地ニ在テ其財産ヲ所有スルヲ許サス又現時ノ居留地ハ之ヲ其全部或ハ全部ニ擴張シ其擴張セシ居留地内ニ在テハ外国人之レニ永住シ又其財産ヲ所有スルヲ得但其財産ハ日本ノ法律ニ拠テ之ヲ所有スヘシ

第四　日本裁判廳ノ審糺ニ属スヘキ輕罪ノ如キモ其廳ニ在テ外国ノ裁判官ヲ任命シ外国ノ代言人ニ入廳スルヲ許シ実際ノ判決ハ外国裁判官ノ掌中ニ於テスルカ如クナスヘシ

第五　日本ニ於テ未タ商法民法婚姻法等ヲ制定セス若クハ其制定アルモ欧西ノ主義ニ拠リテ之ヲ改正セサルアラハ外国法律ノ原理ヲ適用シ前條ニ託セル外国裁判官ヲシテ之ヲ判決セシムヘシ故ニ外国人民ノ位置ハ現時ニ異ルナキノミナラス其保告タル時ニ在テハ却テ好位置ヲ占ムル者トス

第六　日本ノ法典欧西ノ主義ニ拠リテ完成シ審理ノ手續キ欧西ノ手續ニ均シク正当ニ行ハルヽニ至ラハ日本裁判廳ノ権力ハ一切ノ訴件ニ及フヘシ但タ此時ト雖モ諸政府ニ於テ尚ホ外国裁判官ノ輔翼ヲ必要ナリト思考スル中ハ其生涯ヲ

朝トナスノ見込ヲ以更ニ其任期ヲ延續スヘシ但
更ニ新外国裁判官ヲ請招スルヿナカルヘシ蓋シ
此時ニ至リテハ日本ノ裁判官十分ニ裁判事務ニ
適スルノ望アレハナリ

第七　警察法出版法宗教法等ハ特別ノ法ニシテ他
ノ商法民法等ノ如ク洪該ノ者ニアラサルヲ以テ
日本政府政府ハ鋭意シテ速ニ改西ノ主義ニ一致
セシムルヲ力ムヘシ但其不完全ナル時ニ在テハ
外国人尚ホ其本国ノ慣例ニ遵フヿヲ得

第八　外国人ハ上告ノ特別權利ヲ有スヘシ而シテ
其災厄ニ遭フノ時ニ当テハ各国普行ノ如ク常ニ
自国ノ領事公使ノ保護ヲ受クヘキハ勿論ナリト

ス

是レ元ト外人ノ傳唱スル所ニ係リ未タ咸ク其信ヲ
置クニ足ラスト雖モ十三年以来吾人ノ聞知シタル
所ニ参照シテ之ヲ考察スルニ甚タ其実ニ遠カラサ
ルヲ覚フルナリ

豫審會議ヲ開テ以来茲ニ殆ント二年其間如何ノ変
遷ヲ為セシカ吾人未タ之ヲ詳カニスルヲ得ス然レ
トモ近時米国大統領ノ勧告昼中我カ條約改正ノ事ニ
説キ及ホシ又タ英国皇帝ノ議院ニ発シタル勅語中
日本ノ條約改正モ久シキヲ出スシテ決落スヘシト
謂ヘル数語アルヲ以テ之ヲ推セハ其改正ノ期甚タ
遠カラサルヲ知ルナリ然レトモ其改正ノ要目ハ果シ

テ何等ノ点ニ在ル乎吾人未タ之ヲ聞クヲ得ス茫々トシテ知ル所ナキハ抑モ又タ痛憾ノ至ナリト謂ツヘシ

本論既ニ其稿ヲ脱シ将サニ印刷ニ附セントスルニ及ンテ又改正ノ商議ニ係ル報道一ツヲ得タリ曰ク

従来我カ政府ハ條約改正ノ議ヲ主張シ其高議ヲ尽セシト雖モ訂約諸国ハ海関税率ノ改正ヲ兼諾スルニ止テ治外法権ヲ撤去スルノ意ナク且ツ頻リニ内地ノ雑居ヲ要求スルヲ以テ我カ政府ハ頃日ニ至リ其議ヲ挙ケテ咸ク之ヲ廷朝センコトヲ発議セリ然ルニ訂約諸国ハ却テ之ヲ速ニセンコトヲ主張シ外人ニ許スニ沿海ノ貿易ト内地ノ旅行トヲ以テシ而モ其旅券ハ我カ外務衙門発付ノ現制ヲ罷メ各国領事之ヲ交付スルノ制ト為サンコトヲ求メ我カ政府ニシテ之ヲ肯諾セハ之ニ報スルニ海関税率ヲ改メテ一割二分ト為スヘシト発議セリト

信偽今未タ判ツヘカラスト雖モ又タ改正商議ノ現状ヲ推知スヘキ者アルニ似タリ故ニ今マ之ヲ追録

第四節　外人ノ専肆ヲ論ス一

前節ニ叙ツル所ヲシテ其実ニ近カラシメハ明治十一年以来今日ニ至ルマテ彼我ノ政府ハ凡リ五回ノ

商議ヲ潤キタルカ如シ其間商議ノ変遷セシ迹ヲ顧ミルニ外人ノ専横擅肆ナル実ニ我カ日本人民ヲシテ憤懣堪ヘサラシムルモノ多フシ中ニ就キ茅三回商議ノ如キハ吾人ノ最モ憤懣ニ耐ヘサル所ニシテ殆ント思フ能ハサル者アリ読者ハ必ラス茅三節ニ在テ世ノ称シテ茅三回商議ノ時我カ政府ノ提出セシ新輸入税目ト為ス者ヲ見シナラム惟フニ夫ノ税目ヲシテ真ニ我カ政府ノ手ニ出テシメハ実ニ愈々譲リ愈々退キ以テ外政府ノ承諾ヲ求メタルモノト謂ハサルヲ得ス蓋シ正当ノ道理ヲ以テ之ヲ謂ヘハ我カ政府タルモノ宜シク収税ノ全権ヲ回復スルヲ之レ勉メ一歩モ譲ル所ナカルヘシ然ルニ我カ政府

外人ヲ待ツノ厚キ敢テ斯事ヲ為サス却テ夫ノ増税案ヲ提出シ以テ之ヲ外政府ノ商議ニ附シタレハナリ惟フニ夫ノ考案ハ之ヲ不正ナル現行ノ税目ニ比スレハ稍々増加ノ観アリト雖モ詳カニ我カ輸入税ノ沿革史ヲ講スレハ唯纔ニ茅一所定ノ税目ニ復シタルニ過キス其正当ノ考案ナル内外識者ノ共ニ許ス所ナリ余今マ読者ノ為メニ我カ輸入税則ノ沿革ヲ示シ夫ノ考案ヲ比較スルノ便ヲ供ヘンニ又多少ノ述説ヲ要ス按スルニ本邦ノ輸入税ハ安政五年戊午六月十九日(西暦一千八百五十八年七月廿九日)幕府ノ宰臣井上信濃守岩瀬肥後守ト米墨聯邦特命全権公使タウンセントハルリスノ商議決定セシモノ

ヲ始トシ同年七月十八日幕府ノ宰臣水野筑後守永井玄蕃頭井上信濃守堀　正岩瀬肥後守津田半三郎英国特命全権公使侯爵葉児沈（エルギン）亜無図（ドウ）於何陣（ハンノ）商議決定セシモノニ小改シ慶應二年丙寅五月十二日西暦一千八百六十六年六月廿九日）幕府ノ宰臣水野和泉守英国特命全権公使サハリハークス仏国特命全権公使レヲンロセス米国代理公使ヒ、エル、シーボートマン和蘭国辨理公使兼總領事泥都巨剌布晩（デーフ　クラーフ　ボルヒ）薄呂（ブルーク）斯武録ノ商議決定セシ改税約定ヲ以テ現行税則ノ如ク改定シ漸ク其不利ヲ我ニ與ヘタルモノナリ余今條約考纂ニ就テ安政五年以来我邦ト外洋諸邦ノ訂約セル税則ノ細故ヲ考フルニ正サニ左ニ排列スル者ノ如シ

安政五年六月十九日幕府ノ米洲聯邦ト商議決定セシ亜米利加商民貿易ノ章程第七則ニ曰ク

總テ日本開港ノ場所ニ陸揚スル物品ニハ左ノ運上目録ニ隨ヒ其運上所ニ租税ヲ納ムヘシ

運上目録

第一類

一貨幣ニ造リタル金銀並ニ造ラサル金銀

一当用ノ衣服

一家財並ニ商賣ノ為ニセサル昏藉（熟レモ日本在留ノ為メ来ルモノヽ所持品ニ限ルヘシ）

右品々ハ運上無シ（所謂ル無税品）

第二類

一凡テ舩ノ造立網具修復或ハ舩装ノ為ニ用ユル品々

一鯨具ノ類

一塩漬食物ノ諸類

一麺包並ニ麺包粉

一生タル鳥獣類

一石炭

一家ヲ造ルヲノ木材

一米穀

一並気器械

一トタン鉛錫

一生糸

右品々ハ五分ノ運上ヲ納ムヘシ（所謂ル従價五分税品）

第三類

一都テ蒸溜或ハ醸シ種々ノ製法ニテ造リタル一切ノ酒類

右品ハ三割五分ノ運上ヲ納ムヘシ（所謂従價三割五分税品）

第四類

一凡ソ前条ニ未ケサル品々

右ハ何ニ依ラスニ割ノ運上ヲ納ムヘシ

（所謂ル従價二割税品）

上文ノ目録ハ是レ米国特命全権公使ハリス氏善国、海外
貿易ノ起州シテ幕府ノ退諾セシ者ニ係リ其所載
未タ感ク吾人ノ意ヲ満スルニ足スト雖モ当時ノ
事情ニ徴シテ之ヲ言ヘハ又妥当ノ法案ニシテ無
挾ノ税則ト称シテ可ナルカ如シ蹟テ安政五年七
月十八日ニ至リ幕府ハ又英国ト商議シテ左ノ税
則ヲ決定セリ

運上目録

第一類

（同年六月十九日米国ト訂約セシ者ニ同
シ故ヽ畧シテ載セス）

第二類

一凡テ船ノ造立修復或ハ艤装ノ為メ
ニ用ユル品々

一鯨漁具ノ類

一ハン並ニハンノ粉

一生タル鳥獣類

一石炭

一家屋ヲ造ル為メノ材木

一米穀類

一蒸気ノ器械

一木綿及羊毛ノ織物

一トタン鉛錫

一生糸
右品々ハ五分ノ運上ヲ納ムヘシ（所謂ル
従價五分税品）
第三類
○
第四類
共ニ米国ト訂約セシ者ト同シ故ニ之ヲ
略ス

上文ハ是レ幕府ノ英国政府ト訂約セシ初度ノ税
目ニ係ル其載スル所大抵米洲聯邦ト訂約セシ者
ニ均シト雖モ唯其第二類中ニ在テ本綿及羊毛ノ
織物類ト題スル一項ヲ加ヘタルヲ異ナレリト為
スノミ然レ𪜈北ノ一項ヲ第二類中ニ加載シタル
ノ特例ハ大ニ本邦関税ノ収入ヲ減シ剰サヘ此特
例ハ英国政府ニ躋テ訂約セシ佛蘭西葡萄牙日耳
曼聯邦以太利等ノ照準スル所ト為リ之ニ先ツテ
訂約セシ米洲聯邦和蘭普西亜三国ノ如キモ亦ソ
ノ條約ニ明記セシ「日本政府ヨリ向後外国政府及
ヒ其臣民ニ許可スヘキ殊典アル時ハ我政府国民
ニモ同様免許アルヘシ」ト云ヘル不正非当ノ条款
ニ拠テ之ニ倣ハンコトヲ求メ幕府之ヲ拒ムニ由
ナク終ニ之ヲ許諾セリ是ニ於テ乎一般ニ本綿及
羊毛ノ織物ニ五分ノ関税ヲ賦シテ之ヲ課スルニ
至リ未タ港澳ヲ開カサル以前ニ於テ早ク既ニ一

割五分ノ税額ヲ減却シ去レリ

此税則ハ安政五年七月訂約ノ日ヨリ慶應二年ニ至ルマテ凡ソ八年ノ間幕府ノ施行スル所ト為リ其年ノ五月十三日幕府ハ又英佛米蘭四公使共同ノ商議ヲ開キ遂ニ改税約定ヲ決シ愈々其不利ヲ我日本ニ與ヘリシヲ現今公行ノ輸入税則ト為ス余今其全文ヲ講スルニ即チ左ノ如シ

輸入品運上目録

第一類　従量税品

番号	品目	量数	税額	
一	明礬	毎百斤	分銀 〇一九〇〇	
二	檳榔	〃	〇四五〇〇	
三	銅製金釦	毎百四十四	〇二二〇〇	
四	蝋燭	毎百斤	二二九〇〇	
五	帆木綿類	毎十瑪	二九〇〇〇	
六	巻烟草	毎一斤	二九〇〇〇	
七	丁子並毋丁子	毎百斤	一〇〇〇〇	
八	洋紅	〃	二一〇〇〇〇	
九	縄（船用）	〃	一二五〇〇〇	
十	繰綿	〃	一二五〇〇〇	
	生金巾			甲巾三拾四英寸
	晒金巾			
	十巾金巾			
	白綾金巾			

	浮紋金巾	疋	〇〇七五〇
	浮無文金巾	乙巾四十英寸	
	雲齊木綿	疋	〇〇八七五
十一	木綿織物類	丙巾四十六英寸	
	カムブリック	疋	〇一〇〇〇
	寒冷紗	丁巾四十六英寸	
	更紗敷寒冷紗	以上毎十瑪	〇一一二五
	柳條布		
	クイルチング		
	コットフロト		
	更紗類		
	右品々色色	巾三十一英寸疋毎十瑪	〇一七五〇

十二	唐桟類又布	巾三十英寸以上四十三英尺疋	〇二五〇〇
	敵織天鵞絨		
	綿天鵞絨		
十三	天鵞絨繻子類	巾四十英寸疋	〇二〇〇〇
	紋綿天鵞絨		
	繻子		
	ナチュラル		
	綿純子		
十四	縞布	巾三十一英寸疋毎十瑪	〇〇六〇〇
		巾四十一英寸疋毎十瑪	〇〇九〇〇
十五	手拭	毎十二	〇〇五〇〇
十六	木綿儒胖日股引	毎十二箇	〇三〇〇〇
十七	飯臺掛	〃一枚	〇〇六〇〇

十八	木綿 糸並ビニ糸	毎百斤	七五〇〇〇〇
十九	木綿糸（白並深色）	〃	五〇〇〇〇〇
廿	阿仙茉	〃	七五〇〇〇
廿一	翡翠孔雀毛類	毎百枚	一五〇〇〇〇
廿二	滕石	毎百斤	一二〇〇〇〇
廿三	檳榔膏	〃	四五〇〇〇〇
廿四	硼子枝	一箱（ナフート四方入）	三五〇〇〇〇
廿四	雌黄	毎百斤	三七五〇〇〇
廿六	膠	毎百斤	六〇〇〇〇〇
廿七	安息香並安息油	〃	二四〇〇〇〇
廿八	麒麟血沒茉乳香	〃	一八〇〇〇〇
廿九	石羔	〃	〇八〇〇〇〇

三十	生牛皮	全	一二〇〇〇〇
卅一	牛角鹿角	毎百斤	一〇五〇〇〇
卅二	犀角	〃	三五〇〇〇
卅三	馬蹄鉄	〃	三〇〇〇〇
卅四	水銀（藍ノ流動物）	〃	七五〇〇〇
卅五	土銀（藍ノ乾キタル物）	〃	三七五〇〇〇
卅六	象牙各種	〃	一五〇〇〇〇
卅七	丹唐ノ土黄丹ヨ油	〃	一五〇〇〇〇
卅八	草	〃	二〇〇〇〇〇
卅九	麻布類	十ヤールトニ付	二〇〇〇〇
四十	丹柄	毎百斤	一二〇〇〇
四十一	アンペラ敷物	一巻ニ付四十ヤールト	七五〇〇〇

四十二	銅並青銅（板棹釘等ニ作ルモノ）	毎百斤	三五〇〇〇〇
三	黄銅並ニユニツノタル（板釘）	〃	二五〇〇〇〇
四	熟鉄（棹大細並釘等）	〃	三〇〇〇〇〇
五	鉄塊	〃	一五〇〇〇〇
六	船脚ニ用フル鉄	〃	〇六〇〇〇〇
七	鉄針金	〃	八〇〇〇〇〇
八	鉛塊	〃	八〇〇〇〇〇
九	鉛板	〃	一〇〇〇〇〇
五十	亜鉛	〃	六〇〇〇〇〇
一	鋼	〃	六〇〇〇〇〇
二	錫	〃	三〇〇〇〇〇
三	鉄葉	重九十斤迄ノ箱	七〇〇〇〇〇

四	蝋引敷付敷物（地ニ敷物）	ナヤールトニ付	三〇〇〇〇〇
五	円似皮敷物（家具ニ用ル物）	仝	一五〇〇〇〇
六	白胡椒黒胡椒	毎百斤	一〇〇〇〇〇
七	木香	〃	二二五〇〇〇
八	水銀	〃	六〇〇〇〇〇
九	羧那盆	毎一本	一五〇〇〇〇
六十	籐	毎百斤	四五〇〇〇〇
一	大黄	〃	一〇〇〇〇〇
二	鹹魚	〃	七五〇〇〇〇
三	白檀	〃	一二五〇〇〇
四	蘇木	〃	四〇〇〇〇〇
五	海馬牙	〃	七五〇〇〇〇

六	一角牙	毎一个	一〇〇〇〇〇
七	鮫皮	毎百枚	七五〇〇〇〇
八	嗅煙草	毎一个	三〇〇〇〇
九	石硯（桿ニナリタル物）	毎百个	三〇〇〇〇
六十			
一			
二			
三			
四			
五			
六			
七			

八			
九			
七十			
一			
二			
三			
四			
五			
七十六	大四雑紙	巾三十四英寸迄毎十瑪	〇六〇〇〇
	小巾四雑紙	巾五十五英寸迄毎十瑪	一〇〇〇〇〇
	ハビットコロウ	巾五十五英寸以上毎十瑪	一二五〇〇〇
	中等四雑紙		

七十七	毛織子	一毎十瑪	一〇四五〇〇
七十八	フラ子ル		
	羅沓板		
	セルヂス		
七十九			
八十			
八十一			
	ラスチング	甲巾三十四英寸迄毎十瑪	〇三〇〇〇
	クレイフラスチング		
八十二	ウルステッドクレーフ	乙巾三十四英寸以上毎十瑪	〇四五〇〇
	メリノス		

	其外都テ毛織物		
	イシテーシヨン、カムレット		
	イミテイシヨン、ラスチング		
	フレイン、オルレンス		
	ヒギユアルト、オルレンス		
	プレイン、ロステル		
	ヒギユールド、ロステル		
	アルバカ		
	バテシース		
	タマスク	甲巾三十四英寸迄毎十瑪	〇三〇〇〇
八十三	イタリアンクロウ	乙巾三十四英寸以上毎十瑪	〇四五〇〇
	タフアセラス		

ロスセルコールド
カワサンドラ
ウーレンファンレー
カムレワト
コルド
其外毛木綿交織物

八十四
五
六
七
八
八十九

第二類　無税品

食料又ハ荷物ニ用ル諸獸類
砧並鎖ノ砧綱
石炭
外国ノ衣服（北蝦夷目録ニ載セサル品ニ限ルヘシ）
金銀貨幣ニ作リタル者又ハ作ラサル者
穀類並粉
油糟
荷造ニ用ユル筵
鹽
硝石
タール並チヤン

茶鉛

茅　三種　禁制品

阿片

茅　三種　從價五分稅品

兵器並軍用諸品

巴里斯品

長沓並沓

時計類並オルゴール

珊瑚

反物類

茶種水茶類

漆器

西洋陶器磁器

諸般家具（新旧ヲ論セス）

硝子器

金銀ノ絲並鈕

ビロード類並香椒類

硝子燈類

鏡類

珠玉類

器械類　綿糸或ハ絹木綿若クハ獣毛氈織物類

油畫並銅版木版畫類

香具石硯

金銀キセル並燧金器物類

獸皮類

遠目鏡並学塾ニ用ユル器具

材木

酒類酒精類食料諸物

江戸条約昏茅ハ條ニ隨ヒ外国船ヲ日本人ヘ賣渡ス節ハ慈気船ハ一噸ニ付銀四十五匁帆前船ハ銀十五匁ヲ納ムヘキ事

此目録ニ付スルニ輸出品運上目録ト三條ノ規則トヲ以テシ其茅一則ハ左ノ如ク昏載セリ曰ク

輸入目録ニ載セサル品ハ輸出目録ニ載スルコトアリトモ之ニ税ヲ納ムヘカラス元代ニ隨テ税ヲ納ムヘシト

上来ハ実ニ慶應二丙寅ノ年五月十三日所訂ノ約條ニ係リ彼我ノ政府之ヲ批准セシ後千凡リ二年ノ間即チ明治一年九月ニ至ルマテ一二ノ改定ヲ為サスシテ之ヲ挙行シ明治維新ノ影響ヲ此訂約ニ及スコト無カリキ然ルニ同年九月廿八日我カ政府ハ新ニ西班牙政府ト修交ノ條規ヲ結ヒ並セテ貿易ノ章程ヲ定ムルニ及テ尤ノ條目ヲ其税則ニ加ヘ始メテ慶應年間所訂ノ税則ニ就テ其一部ヲ改訂セリ

茅一種　従量税品

品目	量目	税額	銀	文
			文分	重毛糸

品目	量目	税額	
煎海鼠	毎百斤	四五〇〇〇〇	
茅二種		無税品	
マニラ鋼			
椰子油			
茅四種		従價五分税品	
マニラ乾葡萄			
鼈甲			
青貝			
鳥ノ巣			

此ノ数項ノ追加ハ西班牙殖民ノ為メ多少ノ利便アリト雖モ本邦商工ノ二業ニ就テ大ナル影響ヲ及ホスコトナキヲ以テ他ノ外国臣民ハ其特例ヲ羨望スルノ情ナリ唯タ西班牙商民ニ與ヘタル殊典タルニ止マレリ

陸奥沼二年正月十日北部日耳曼聯邦ト修好ノ條規ヲ結ヒ並セテ貿易ノ章程ヲ定約スルニ及ンテ大ナル変動ヲ慶應訂約ノ税則ニ及ホセリ今顧ヒテ当時我カ政府ト日耳曼政府トノ間ニ訂約セし貿易章程茅七則ヲ閲スルニ即チ曰ク

輸入品運上日録ハ總テ千八百六十六年茅六月廿五日（即チ慶應二年丙寅五月十二日）ノ改税約書ニ同シ唯タ左ノ輸入税ヲ減スルノミ

品目	税額
茅一種	銀〇文〇分〇厘〇毛〇糸

木綿襦袢股引	毎十二	三〇〇〇〇
毛織同	〃	一二〇〇〇〇
毛木綿交織同	〃	七五〇〇〇

此殊別ノ減税（慶應訂約ノ税則ニ拠レハ木綿襦袢股引ハ毎十二箇ニシテ銀四匁五分ヲ納レ織ノモノハ銀十五匁毛木綿交織ノモノハ銀九匁ヲ納ルトヲ例トス）ハ我カ貿易ニ重大ノ影響ヲ生シ殊ニ外商ニ取テ巨大ノ利得アルヲ以テ夫ノ英米佛蘭等ノ諸国ハ少ラクモ之ヲ猶豫セス直ニ修好條規ニ拠テ其特例ヲ弊ケ之ヲ之ニ付与セシコトヲ求メり是ニ於テ乎我カ外務御門ハ明治二年九月廿七日ノ署題ヲ以テ左ノ文旨ヲ各国公使ニ致シ夫ノ物品ノ減税ヲ許諾セり其文ニ曰ク

以手紙致啓上候然者條約運上目録ノ内毛木綿織物中左件ノ品輸入減税ノ儀兼テ独逸北部聯邦ト條約取結ノ節協議致置趣モ有之候ニ付左ノ両通相減申候

木綿襦袢股引	毎十二	元税	一分銀〇三〇
〃	〃	減税	〃 〇二五
毛織襦袢股引		元税	〃 一〇〇
〃		減税	〃 〇八〇
綿毛交織同		元税	〃 〇六〇
〃		減税	〃 〇五〇

右輸入減税ノ儀ハ我水年十一月三十日西洋千

八百七十年第一月一日ヨリ致施行候間其段貴
国人民ヘ御布告有之度存候右可得御意如是御
座候以上

己九月二十日

外務大輔
外務卿

佛米英公使閣下

此ノ減税ノ後ハ今日ニ至ルマテ一二ノ改定ヲ輸
入税目ノ上ニ公行セシコトナシ然レトモ明治七年
五月十日熟鉄ノ字義ヲ決定スル為メ我外務卿ハ
英独公使ト左ノ覚書ヲ商議決定セリ今其文ヲ考
フルニ即チ曰ク

運上目録中ニ載セタル熟鉄　称スル辞
ノ意味ニ付異存差起リ候処之ヲ解カンカ為メ
下名ノ者協議ニ及ヒ條約書中右一件ニ関スル
條款改定相成右一件確ト取極メ候迄ハ日本国
運上所ノ官員及品物ヲ輸入スル英国人(独逸)国
人共次ニ記スル取極ヲ守ルヘキヲ同意セリ

熟鉄		
掉大細	毎百斤	一分銀
釘		
板		
薄板		
箍鉄		
帯鉄		

〇三〇〇〇

鉄塊	毎百斤	一分銀 〇一五〇〇
舩脚用鉄	〃	〇〇六〇〇
鉄線	〃	〇八〇〇〇

右ノ外熟鉄諸類ハ工形鉄及ヒ稜鉄ヲ除キ總テ掲ケサル品物ノ部分ト見做シ隨テ從價五分ノ稅ヲ收ムヘシ

工形鉄及ヒ稜鉄百斤ニ付一分銀〇三ノ定額ヨリ多ク收ムヘキ哉否ハ別段ニ商議スヘシ

帝国運上所ニテ前文ニ掲載スル稅高ヨリ過分ニ收納セシ稅ハ總テ輸入者ヨリ願出候時之ヲ差戻スヘキナリ

一千八百七十四年五月十日　寺島宗則手記

余今北覺書ニ拠テ之ヲ見ルニ鉄塊ハ半額ノ稅ヲ減シ舩脚ニ用ユル鉄ハ七分ノ六弱ヲ減シ鉄線ハ一階以上ノ増稅ト為リタルヲ知ル是ヲ以テ北覺書モ亦輸入稅目ヲ改定シタルモノヽ一ニ数ヘサルヲ得サルカ如シ

海黎息斯（エスパーリス）樵窟院（エムプオンブテント）手記
燕鳳武廟　徳手記

実ニ本邦輸入稅則ノ沿革ニシテ其大要北ノ如シ惟フニ読者ハ如何ノ思想ヲ以テ之ヲ読了セシヤ余請フ茲ニ再ヒ蒙三回商議ノ考案ナル者ヲ掲ケ前ノ諸則ト相較シテ其増減スル所以ノ実ヲ知ルノ表目ヲ立ントス

無税品

金銀地金

石炭

貨幣

肥料

製造セサル長毛短毛

舩艇

五分ヲ標準トスル従量税品

金鶏助質

阿仙茱

滲灰

製造シタル鉄

各種ノ穀類

鉛（製造及ヒ未製造トモ）

水銀

馬口鉄板

皮

錫

亜鉛（塊板）

銅

鋼

青銅

黄銅

白蝋

泊芙蓉
硝石
粉類
蝙蝠ケノ骨
白銅
繰綿
種々ノ分析器
立分ノ従價税品
砲并ニ鎖
他ニ指名セサル菜料菜種
機械類
工用具

馬車等
一割ヲ標準トスル従量税品
樟脳
青殻（水土トモ）
麻布
木綿織物（綿天鵞絨ヲ除ク）
オルタラマリーン
木綿糸
苧
麻
毛
羽

一割ノ従價税品

他ニ指名セサル染料

他ニ指名セサル彩料

他ニ指名セサル木綿織物

木綿麻交織

紫染粉

一割五分ヲ標準トスル従量税品

鉄釘并銅釘

石炭油

窓硝子

綿天鵞絨

綿畳縅紡

毛綿交織物

捻ヲ掛ケサル木綿

麻苧縷糸

一割五分ノ従價税品

捻ヲ掛ケタル木綿麻苧ノ縷糸

生牛皮

他ニ指名セサル釘

他ニ指名セサル毛織物

他ニ指名セサル毛布製造品

二割ヲ標準トスル従量税品

手拭

生糸

石硯
茶
茄菲
蝋燭
紙
毛

二割ノ從價稅品

時計
熟皮
鏡
飲料
肩衣綿

家具

二割五分ヲ標準トスル從量稅品

沓足袋
襦袢

二割五分ノ從價稅品

袂時計
絹物並交織物
提飾具
帽子
肩衣
硝子器
蝙蝠傘

三割ヲ標準トスル從量稅品

煙草並巻烟草

砂糖（赤白トモ）

麥酒

葡萄酒

酒精類

三割ノ從價稅品

棉付糸

珊瑚

兵器兵具（武具砲器碩丸彈薬）

鼈甲

火茶

他ニ指名セサル酒料

禁制品

阿片

華氏ノ寒暖計百二十度以下ノ温度ニテ發火スヘキ石炭油不良ナル茶品食料飲料

禁制ニ得ヘキ品

時疫流行ノ地ヨリ輸送シタル畜類並生皮

兵器

火茶及ヒ一切ノ武具

上来ハ実ニ世人ノ信シテ第三回ノ商議ニ在テ我政府ノ提出セシ輸入稅目ノ考案ト爲スモノナリ今之ヲ以テ旧来ノ稅則ニ比較セントスルニ彼レ許多

ノ変遷アリテ直ニ之ニ従事シ去ルヲ得ス故ニ今其便ヲ謀リ税則ノ種類ヲ分チ三ツトシ名ケテ

(一)安政決案

(二)慶應明治決案

(三)明治新考案

ト為ス安政決案トハ安政五年幕府ノ米国公使海黎(ハリス)氏及ヒ英国公使侯爵葉児沈(エルギン)亜無国衿何陣(ヤーケン)氏ト商議決定セシモノヲ云ヒ慶應明治決案トハ慶應二年幕府ノ英佛米蘭四公使ト商議決定シタル運上目録及ヒ尓後明治新政府ノ漸次コレヲ改定シタルモノヲ含蓄シテ云ヒ明治新考案トハ前ノ考案ヲ云フナリ

余是ニ於テ先ツ安政決案ト慶應決案トヲ比較スルニ其差異ノ要凡リ左ノ如キヲ見ル

第一　安政決案ハ平均一割ニ当ルモ慶應明治決案ハ五分ヲ以テ其基ト為ス事

第二　安政決案ハ皆ナ従價税ナルモ慶應明治決案ハ従量税品ヲハ八十九種ノ多キニ上シ従價税品ハ纔ニ二十四種ニ過キサル事

第三　安政決案ノ無税品ハ纔ニ三種ナルモ慶應明治決案ハ十八種ノ多キニ上レル事

余次ニ慶應明治決案ト明治新考案トヲ比較スルニ其差異ノ要凡リ左ノ如シ

第一　従量税品ヲ減シテ従價税品ヲ増シタル事

第二　慶應明治決案ハ従價税ハ五分ニ止リ従量税モ亦タ二割ヲ最高ノ者ト為スルモ明治新考案ハ両税品共ニ三割マテニ止リタル事

第三　無税品中石炭金銀地金貨幣ヲ除クノ外悉皆之ヲ廃止シ更ニ肥料製造セサルモ羽及ビ舶艇ヲ新考案ニ加ヘタル事

第四　禁制品ニ過度ノ石炭油及ヒ不食ノ菜品食料飲料ヲ加ヘタル事

余最後ニ在テ安政決案ト明治新考案トヲ比較スルニ其差異ノ要旨ノ如クナルヲ見ル

第一　安政決案ハ平均一割ノ課税ニシテ明治新考案ハ平均一割五分ナル事

第二　安政決案ハ皆ナ従價課税ノ法ヲ用ユルモ明治新考案ハ従價従量ノ二法ヲ兼用シタル事

第三　安政決案ノ無税品ハ総ニ三種ナルモ明治新考案ハ六種以上ノ種類アル事（但シ安政決案ハ公法ニ拠テ正当ニ課税ヲ免ルヘキ品物ヲ篭入シテ総ニ三種ト為スニ過キス明治新考案ハ之ヲ既定ノ品物ト認メ之ヲ特訂ノ規約ニ編入セス

第四　禁制品ニ加フルニ過度ノ石炭油及ヒ不良ノ菜品食料飲料ヲ以テスル事

斯ノ如ク比較シ了ハリ明治新考案ト慶應明治決案
トノ比較差異ヲ見レハ明治新考案ハ過量ノ税額ヲ
賦課スル者ノ如シ然レ氏顧ミテ之ヲ安政決案ニ比
較スル者ヲ見ハ唯タ徒ニ五分ノ差異アルヲ見ルノ
ミ剩サヘ明治新考案ハ無税品ノ種類ヲ増加シ又従
量従價ノ物品ヲ分別スルノ寛裕アルヲ以テ互ニ其
過不及ヲ衆除セハ五分ノ差異或ハ零位ニ至ルヘキ
ヲ知ルナリ是ヲ以テ余ハ断シテ曰ク明治新考案ハ
安政決案ニ復古シタル法案ニシテ寧ロ新案ト称ス
ヘキ者ニアラスト余決シテ妄語ヲ作リ読者ヲ誣ヰ
ント欲スルニアラサルナリ独レ外人ノ専肆偏頗
ナル敢テ兼諾ヲ此商議ニ與ヘス我カ帝国ニ對シテ
至当ノ敬禮ヲ尽スノ常道ヲ欠ケリ吾人豈ニ之ヲ憤
懣セサラシヤ然レトモ是レ今マ往事ニ属ス余甚タ
之ヲ追論セス唯第五回ノ商議即チ最近ノ商議ニ在
テ外国判事ノ参判ヲ求メ又タ彼レ未タ治外ノ法権
ヲ撤セサルニ猶ホ内地旅行ノ自由ヲ要求スルニ至
テハ其横肆至ラサル所ナク我カ日本人民タルモノ
勢ヒ之ヲ默止スル能ハサルナリ

第五節　外人ノ専肆ヲ論ス二

余今マ世ノ称シテ第五回商議ノ考案ナリト為スモ
ノヲ採リ仔細ニ之ヲ見ルニ其何人ノ手ニ成ルヲ詳
カニセス然レトモ其案ノ大要ニ就テ我カ邦ニ及ボス
ヘキ将来ノ利害ヲ考フレハ寧ロ利ノ少クシテ害

ノ大ナルヲ見ル故ニ余ハ其案ヲ以テ外人ノ手ニ出ツルモノトシ以テ其專肆ニシテ厭クコトナキヲ憤ホレリ既ニ第三節ニ示スカ如ク外人ノ傳誦シテ條約改正ノ新案ト為スモノハ実ニ八大要目ヲ以テ組成ス然レトモ其中最モ要須ニシテ最モ重キモノハ第一第二第三第四第五ノ数項トス余今マ其意ノ所在ヲ集ムルニ実ニ左ノ如キヲ覺ユ

一治外法権ヲ一時ニ全廢スルハ彼我ノ利益タラサルヲ以テ五年乃至十年ノ間ハ日本裁判所ニ在テ一種ノ判事ヲ組織シ日本ノ判事ニ支フルニ外国ノ判事ヲ以テシ之ヲシテ外人ニ係ル諸凡ノ軽罪ヲ断定セシメ其実際ノ判定ハ外国裁判官之ヲ掌握スルカ如クシ其高法民法等ニ係ル訴訟ハ外国裁判官專ラニ之ヲ判決スヘシ

二五年乃至十年ノ間外人ノ内地ニ旅行シ及ヒ内地ニ在テ商賣スルコトヲ許ス但タ内地ニ住居スルト内地ニ在テ財産ヲ所有スルハ允許ノ限ニ在ラス然レトモ此ノ約條ニ依テ将来ニ擴張スヘキ居留地ニ在テハ外人ノ永住ヲ許シ並ニ財産ヲ所有スルヲ得セシム

惟フニ外人ノ所求ニシテ真ニ上文ノ如クナラシメン乎余ハ第一ニ外人ノ我ヲ愚弄スル実ニ甚シキヲ憤ラサルヲ得ス蓋シ冒頭ニ在テ治外法権ヲ一時ニ全廢スルハ彼我ニ不利ナルヲ以テ云々スト謂フハ

五年乃至十年ノ間ヲ限リ我カ政府ニ供フルニ軽罪ヲ判決スルノ権ヲ以テルヲ称シ治外法権ノ一部ヲ撤去スルモノナリト謂フノ意ナラム然リト雖モ是レ元ト一部タモ治外ノ法権ヲ撤去スルモノニ非ス其名ハ之ヲ撤スルニ似テ其実ハ之ヲ牢クシ寧ロ外人ヲシテ内政ニ干預スルノ禍源ヲ開クモノト謂ハサルヲ得ス傳者未タ外国判事撰任ノ如何ヲ挙ケハ故ニ余未タ其ノ意ノ在ル所ヲ詳カニセスト雖モ試ニ外人参判ノ字義ヲ味ヘ其意ヲ推スニ蓋シ外国政府代理ノ吏員ヲシテ我カ裁判ニ会同セシメ若クハ参判セシメ其共同ヲ得テ之カ判決ヲ下サシメントト欲スルモノナルヲ知ル若シ果シテ余ノ推ス所ニ違ハサラン乎是レ我カ内政ヲ故テ外人ノ干預ヲ許スノ端ヲ開クモノニシテ一層ノ汚辱ヲ授シテ之ヲ我カ独立ノ躰面ニ蒙ラシムルモノナルヲ知ルナリ既ニ論スルカ如ク国ノ国タルニ二ノ品等アルヲ要スト雖ト曰ク境外ノ邦国ニ對シテ平等ノ位地ヲ保チ自カラ其威力ヲ維持シ自在ニ其尚フ所ヲ行フヲ得ルノ品等ナカラサルヘカラス二ニ曰ク自カラ境内ノ政治ヲ為シ自カラ其法律ヲ制定シ以テ其土ト其民トヲ寧シ曾テ他邦ノ干渉ヲ受ケサルノ品等ナカ元サルヘカラス是レ吾人ノ熱意シテ治外ノ法権ヲ撤去セシメント欲スル所以ニシテ其本旨実ニ外人ノ我カ内政ニ干渉スルヲ拒絶セントト欲スルニ在リ然

ルヲ今マ治外ノ法権ヲ撤シテ之ニ換フルニ会同裁判若クハ外人参判ノ制ヲ以テセハ所謂ル前門虎ヲキ後門狼ヲ入ルヽノ実ヲ為スモノニシテ我カ独立ノ躰面ヲ保チ国ノ国タル品等ヲ全フスル所以ニ非ラサルナリ蓋シ治外ノ法権ヲ許スト会同裁判若クハ外人ノ参判ヲ許スノ所異ハ唯タ域内ニ在テ専ラ域外ノ法権ヲ行フヲ許スト域内ニ在テ域外人ノ我カ法権ニ干預スルノ間ニ在テ外人ヲシテ内政ニ干預セシムルノ実ニ至テハ二者ノ間甚シキ軽重差等アラサレハナリ故ニ単ニ席上ノ論ヲ推シテ之ヲ断スルモ外国裁判官ノ参判ヲ許スカ如キハ外国ノ法権ヲ撤セシムルモノニ非ラスシテ却テ其権ヲ牢

クスルモノタルヲ知ル況ンヤ之ヲ実例ニ求メテ之ヲ証スルニ埃及王国ノ事大ニ其然ルヲ明ニス余今顧ミテ埃及ノ史冊ヲ繙キ一千八百七十九年以来ノ事実ヲ討査スルニ埃及ハ既ニ独立ノ王国ニ非ラス又タ既ニ半独立ノ候国ニ非ラス唯タ僅カニ英佛共有ノ一殖民地タルヲ観ル是レ元ト他故アルニ非ラス当初彼レ誤テ合同ノ裁判所ヲ設ケ英佛ヲシテ内外交渉ノ所訟ニ参同セシメ其ヲシテ内政ニ干預セシムルノ端ヲ開キタルニ因ル惟フニ埃及ニシテ当初外人ノ司法権ニ干預スルヲ拒絶スルアラハ遂ニ財政ト土工ト兵カトニ干渉スルノ途ヲ為サス隨テ英佛人ヲシテ今日ノ跋扈ヲ致サヽラシメシナラム

然ルヲ彼レ之ヲ察セス杜撰之ヲ処シ以テ謂フヘカラサルノ禍害ヲ養ヒ以テ之ヲ埃及ノ邦国ニ嫁スルニ至ル蓋シ悲痛ノ至リナリト謂フヘシ嗟夫レ斯ノ如シ是ヲ以テ我カ日本ノ人民ハ常ニ埃及ヲ以テ鑑トシ其弊ヲ避ケンコトヲ之レ勉ムヘシ然ルヲ外人何ノ無禮ナル敢テ埃及ノ覆轍ヲ以テ之ヲ我ニ擬ス我カ日本人民タルモノ誰カ之ヲ忍フヲ得ム決シテ之ヲ忍フ能ハサルナリ外人ノ要求ヲ保護スル者或ハ曰ク五年乃至十年ノ期アリ甚タ害ヲ日本ニ加ヘスト是レ大ニ誤マレリ五年ノ期十年ノ約吾人之ヲ恃ムヲ得ス而シテ之ヲ恃ムヲ得サルハ條約改正ノ期既ニ十年ヲ経過スルモ外人猶ホ辞ヲ左右ニ托シ之ヲ履行セサルヲ以テ之ヲ証明ス外人ノ専肆既ニ常道ヲ以テ之ヲ規スルヲ得ス故ニ余ハ常道ヲ推シテ五年ノ期ニ至テ全ク外国ノ裁判官ヲ廃スルノ実アルヲ保認スルヲ得サルナリ

傳者或ハ曰ク外国ノ判官ハ外国政府ノ代理人ニ非ラス我カ政府ヲシテ隨意ニ之ヲ撰任スルヲ得セシムルノ制ナリト若シ果シテ然ラン乎稍々我カ日本人ノ忿怒ヲ解クヘキニ似タリ然レトモ是レ然ラス設令我カ政府ノ撰任ニ出テシムルモ外交商議ノ結果ニ依テ之ヲ招聘スルモノナラシメハ余断シテ其不可ナルヲ知ル蓋シ我カ政府ニシテ自カラ好ンテ外人ヲ招聘スルモノナラシメハ其主ハ我ニ在リ其

進退與奪一ニ我カ意ノマヽニ是ヲ以テ幾百人ノ
多キヲ招聘スルモ我カ政務ニ用アラハ則チ不可ナ
シ然レトモ若シ外交商議ノ結果ニ因テ之ヲ招聘スル
モノナラシメハ我レ既ニ其自主ヲ失シ進退與奪決
シテ我カ意ノマヽニスルヲ得サルヘケレハナリ惟
フニ我ヽシテ其進退廢止ヲ專ラニスルヲ得ス之カ
自主ヲ失スルアラハ設令我レ之ヲ撰任スルノ各ア
ルモ其実ナク到処外国政府ノ意見ヲ削キ其肯諾ヲ
得テ之ヲ進止セサルヲ得サルヘシ是レ又タ埃及ノ
既ニ実歴スル所ニシテ其弊蓋シ謂フヘカラサルモ
ノアリ埃及ノ近史ヲ紀スル者曰タ埃及ノ亜毘勢尼
亞ト戰フヤ埃国ノ財政甚タ急ナリ国王イスメイル

之ヲ憂ヒ英国政府ニ就テ埃国政府ノ所有スルノ蘇
士運河株券ヲ買取シ且ツ一人ノ財理家ヲ送リ其財
政ヲ整理セシメンコトヲ請フ英国政府咸ク其請ヲ
納レ二千〇三拾八万二千余回ヲ抛チ運河ノ株券ヲ
買取シ更ニ惠武氏ヲ撰ミ埃及政府ノ聘ニ應セシメ
実ニ一千八百七十五年ヲ以テ埃及ニ赴ク此挙ヤ大
ニ佛国政府ヲ驚カシ頗ル物議アリ是ニ於テ乎英政
府ハ猶々其位置ヲ譲リ佛国ト共同シテ埃及ノ財政
ヲ監督ス然レトモ走斯梅兒ノ浪費ヲ好ムヤ財政愈
々乱レテ愈々傾マラス埃及ノ国将サニ自カラ倒產
セントスルニ至レリ是ニ於テ乎英佛ハ相議シテ
委員ヲ送リ其衰勢ヲ回復スルノ方ヲ立テシム委員

埃及ニ至リ親察時アリ遂ニ王有ノ財産ヲ賣却シテ
財政ヲ救フノ切ナルヲ奏セリ是ニ於テ千(千八七十
八年八月廿二日)国王自カラ王有ノ財産ヲ捨テヽ之
ヲ国有ノ財産トシ又タ貴族ヲシテ其財産ノ幾部ヲ
割カシメ以テ国用ニ供セシメリ既ニシテ埃国ノ名
家女婆々汐ハ国王ノ命ヲ受ケテ丹閣ヲ組織シ中ニ
就キ英人維児遜ヲ以テ大蔵卿トシ佛人泥武黎昊尼
児ヲ以テ工部卿タラシム此挙ヤ大ニ世望ヲ引キ皆
ナ曰ク埃及ノ政事日ヲ指シテ改マラント然レトモ
国王永ク自カラ節スル能ハス遂ニ七十九年二月十
八日ニ至リ兵ヲ遣テ丹閣ニ迫リ女婆々汐ヲシテ其
職ヲ解カシメ又タ維児遜、泥武黎昊尼児ヲシテ其職

ヲ去ラシム然レトモ二人王命ヲ奉セス答テ曰ク自
国政府ノ命令アルニ非ラサルヨリハ其職ヲ解クヲ
得スト既ニシテ英佛共同シテ埃及ニ迫リ国王ヲシ
テ其位ヲ譲ラシメ聽カサレハ兵ヲ以テ之ヲ強サン
コトヲ告ク是ニ於テ王遂ニ位ヲ其子泥武飛巨ニ譲
ルト読者ハ此一段ヲ読ミシテ如何ノ感想ヲ発セ
シヤ余ハ之ヲ読ム毎ニ来タ嘗テ巻ヲ掩フテ大長息
セスンハアラサルナリ顧ルニ維児遜武黎昊尼児ヲ
聘セシハ元ト埃及王国ノ意ニ出テシナラン然ルニ
一旦事アリ之ヲ進退スヘキノ時ニ至テハ国王之ヲ
専ラニスルヲ得ス却テ王自カラ其位ヲ去ルニ至ル
嗚呼又タ顛倒ノ事ナリト謂フヘシ是レ半ハ国王無

力ノ罪ニ依ルト雖モ亦タ外交商議ノ結果ニ因テ夫ノ二人ヲ招聘シタルニ因ラスンハアラサルナリ是ヲ以テ余ハ傳者ノ説ヲ聞キ直ニ我カ憤リヲ散スルヲ得ス却テ之ヲ増スノ情アリ我カ当局ノ有司ハ斯ノ考察ヲ見テ何等ノ感想ヲ発セシヲ必ス余ト其意ヲ同フシ大ニ之ヲ憤ホルアルヲ信スルナリ

且ツ夫レ来朝ノ判事ハ理勢共ニ外人ヲ屈曲スルノ恐レアリ余其公平無私ヲ守ルノ甚タ難キヲ証ス蓋シ日本ノ判事ヲ措テ来朝ノ判事ヲ入レントスルハ元ト外人ノ利益ヲ回護セントスルノ意ニ出テ他故アルニ非ラス故ニ外来ノ判事タルモノ必ラス心ニ思フナラン外人ノ利益ヲ保護スルハ我レノ任ナリ我レノ職ナリト外人モ亦タ以為ク我レノ利益ハ外来判事ノ回護スル所ト為ラントヲ是ニ於テ乎外来ノ判事タルモノ勢外人ヲ屈曲セサルヲ得ス屈曲スレハ外人之ヲ嘉ミシ屈曲セサレハ外人之ヲ誹リ以テ其私ヲ成スニ至ルヘケレハナリ是レ又我邦人民ノ利便トスル所ニ非ラス唯リ人民ノミ其不利ヲ蒙ムルニ非ラス其極ヤ一場ノ争端ヲ発キ以テ之ヲ彼我政府ノ間ニ拿来スルニ至ラン蓋シ又畏ルヘキナリ

外人ノ我ヲ愚弄スル実ニ此ノ如シ而シテ其非情厭クコトナキハ茫二ノ項目ニ於テ之ヲ明知スルヲ得シ顧フニ治外ノ法権ヲ全撤シ而シテ信チ内地ノ旅

行若クハ雑居ヲ求メハ我レニ於テ始メテ真可否得
失ヲヲ較シ利アラハ之ヲ許スヘシ然ルヲ彼レ何ノ
鉄面皮ソ未タ治外ノ法権ヲ全撤セサルニ当テ早リ
既ニ斯ノ要求ヲ為ス我カ日本人民ハ断シテ之ヲ許
サヽルナリ然レトモ外人ヲシテ内地ニ旅行セシメ若
クハ之ニ雑居セシムル一案ハ独リ外人ノ要求ス
ル所ナルニ止マラス間々内国ノ論客ニシテ之ヲ賛
同スルモノアリ中ニ就キ時事記者朝野記者等ノ如
キハ其最ナルモノナリ時事記者ハ本年二月廿日ノ
新紙ニ載スルニ左ノ一節ヲ以テセリ曰ク
我輩ハ内地雑居ト聞テ徒ニ変色仰天スルモノニ
非ス蓋シ我輩ノ宿説ニ於テ内地交通ノ便開クル
ニ隨テ日本政府ハ縦ヒ外人ノ内地旅行ヲ禁シ置
クモ其禁ハ有名無実ニ帰シテ漸ク雑居ノ姿ト為
ル可シト信スレハナリ今日ノ実際ニ於テハ我日
本人ト西洋人トノ交際多クハ開港貿易場内ニ留
マリ其交際ノ区域亦タ内地ニ広マラスト雖モ西
洋人カ斯ク甚シキ迄ニ旅行規程内ニ屈シ来タ内地
ニ深入スルノ機ヲ得スシテ紗窓ヲ隔テヽ他人ノ
家内ヲ窺フカ如キノ観アルハ畢竟内地交通ノ便
未タ十分ニ開ケサルカ故ノミ今後内地ニ鐵道ノ
事業行ハレテ其線路ヲ各地重要ノ都会及ヒ開港
ノ地ニ聯接シ東北ハ仙臺青森ヨリ西南薩摩湾ニ
至ルマテ本線支線縦横シテ往来自由ナル其時ニ

モ尚内地ノ旅行ヲ制スルヿヲ得ヘキ欤西洋人カ
汽車ニ乗リテ朝ニ開港場ヲ発シ未タ一時間ナラ
スシテ旅行規程ニ達シタル件此処ハ規程ノ分界
ナリトテ一歩モ此分界ヲ踰ヘテ内地ニ入ラシメ
サルヿヲ得ヘキヤ日本ノ端ヨリ端ニ至ルニモ二
日ヲ出テサルノ時節ニ活潑ナル西洋人ヲ束縛シ
テ之ヲ旅行規程内ニ封スルヿヲ得ヘキヤ我輩ハ
断シテ其行フ可カラサルヲ信スルモノナリ尤シ
ハ内地鐵道ノ架設ハ西洋人ヲ導テ之ヲ内地ニ入
ルヽノ端ニシテ政府縱ヒ外人ノ雜居ヲ禁スルモ
雜居ノ実ハ漸ク行ハレテ之ヲ奈何トモスル能ハ
ス況シヤ之ヲ禁セスシテ更ニ之ヲ許スニ於テヲ

我国内地ノ人民ハ早晩西洋人ニ直接シテ之ト雜
居スルモノト覚悟シテ可ナリ
我日本人ハ西洋人ト雜居ス可キニ定マリタリ既
ニ雜居シテ互ニ交リ互ニ樂ミ又互ニ相競ヒタラ
ハ西洋人トテ決シテ邪悪ナルニ非ス勿論其一二
人ヽ就テ云ハヽ口蜜腹剣ノ人物モアラント雖ト
其千百人ノ上ヨリ見レハ共ニ友トスヘキモノア
リ又親ム可キモノアリ高貴共ニ行フヘシ政治法
律共ニ語ル可シ啻ニ畏テ避ケサルノミナラス我
ヨリ進テ之ニ交接スルヿトモナラン我国無識者
ノ習トシテ西洋人ト聞ケハ顔色ヲ変シ無二無三
ニ之ヲ恐怖スレハ今日ニ及ンテ何故ニ斯クハ西

洋人ヲ恐ルヽヤ畢竟謂レナキノ甚シキ者ナリ西洋人ハ我国ノ富利ヲ擢ンテ恣リ之ヲ奪フト云ハンカ成程安政慶應ノ頃ニハ我国上下ノ人民モ共ニ外国人ノ様子ヲ知ラス金銀ノ價格釣合サヘモ尚之ヲ知ルニ由ナクシテ一分銀四枚ニ小判一枚交換シ居リシ位ノ始末ナレハ一時西洋人ノ為メニ巨利芳餌ヲ占メラレタラント欲ス今日本四中最早斯カル奇利アル可ラス若シ之レアラハ態々外人ノ手ヲ煩ハスニ及ハスシテ内ニ之ヲ占領スル者アラン故ニ西洋人カ格外ニ日本ノ富利ヲ占メタリトハ二十餘年前ノ夢ニシテ今日ニ至リテ尚之ヲ喋々スルハ畢竟痴人説夢ノ類ノミ何ソ歯

牙ニ掛クルニ足ランヤ或ハ西洋人雑居ノ姿ト為ラハ低利ノ資本ヲ持来テ内地ノ産業ヲ奪フト云ハンカ成程西洋諸国ノ利子ハ我国ヨリモ低下ナレ共誠ニ西洋ノ資本ヲ日本ニ移シ不知案内ノ内地ニ入リ危険ヲ冀シテ計リタラハ其資本決シテ低利ニ当ラス況シテ西洋人カ資本ヲ投スルノ地ハ北亜米利加ヽ濠斯太利亜ニ次ル殷富ノ場所甚タ多キカ故ニ有限ノ資本国ヨリ一処ニ奔走シ来ルノ恐レナシ故ニ西洋人ノ一手ヲ以テ内地ノ産業ヲ壓断ストハ之ヲ要スルニ一片ノ杞憂タルニ過キサルナリ手速ク西洋人ノ実價ヲ知ラントナラハ差当リ横濱在留ノ外国人ヲ見ルニ若カス彼

レ高賣上ノ掛引ニ就テ日本商人ト何程ノ差異ア
ル可キヤ日本商人不景気ナレハ在留外人モ同断
ニ不景気ニシテ別段ニ金儲ケノ妙案モナク昨年
ヨリ本年ニ掛ケテハ或ハ負債ニ身代ヲ没シテ久
シク居留地ニ住スルヿサヘ叶ハス烟突未タ黙カ
ラス席未タ煖カナラサルニ早ク已ニ故国ノ途ニ
就ク者ナカラス此一事ヲ推シテ考フルモ西洋人
ハ決シテ共シ難キモノニ非サルヲ知ルナリ
然リト雖モ内地雑居ハ決シテ軽事ニ非ス今後一
日外人雑居ノ姿トナラハ慶女同様ノ内地人民ハ
一時度ヲ失フテ狼狽ハ終ニ之ヲ免ル可ラス今日
今日雑居ノ姿ト変スルモ今ヨリ十百年ノ後ニ至

テ始メテ外人ト雑居スルモ我日本人ノ智識進メ
ハ西洋ノ文明モ進歩スルカ故ニ今ノ侭ニテ放任
シテ顧ミサルトキハ内人民智巧ノ懸隔ハ進モ之ヲ
平均スルノ期ナカルヘシ今日ノ勢ヒヨリ察スレハ
西洋ノ文明ハ一瞬千里駿々トシテ及ヒ易カラス
或ハ後日内外ノ差異ハ今日ノ懸隔ヨリモ尚一層
大ナルニ至ル可キヤモ測リ難シ故ニ百年ノ長計
ヨリ考フレハ今日ニ及ンテ早ク雑居ノ姿トナリ
西洋人ヲ内地ニ延接シテ内地人民ノ懶夢ヲ警破
シ西洋ノ文明ヲ採テ西洋人ト交際競争スルノ覚
悟ヲナサシムルニ若カサルナリ或ハ其時ニ一時
妻ケノ不利アラハ其不利ハ即チ文明ノ代價ナリ

トシテ之ヲ犠牲ニ供スルモ可ナリ現時内外ノ模
様ニテハ交通ノ便益開ケントスル勢ナレハ強ヒ
テ内地雑居ヲ拒絶スルノ時日モ最早切迫シ来リ
タリ我国内地ノ人民モ久シキヲ出スシテ英米佛
独伊墺等ノ人ト軒ヲ駢ヘテ相住居シ商賣學問政
治ノ大ヨリ冠婚葬祭宴楽遊戯花鳥風月ノ細ニ至
ルマテ一個人ノ資格ヲ以テ互ニ交リ互ニ楽ミ去
ルモノハ留メス来ルモノハ拒マス人々ノ勝手次
第ニ任シテ錯雑喧騒也然トシテ交際スルヿトモ
ナラン孰レモ男子ノ事業ナリ文明国人ノ行為ナ
リ深ク恐ルヽニ足ラサルナリト

朝野記者モ亦タ本年三月一日及ヒ四日ノ新紙ニ在
テ左ノ一節ヲ掲載セリ曰ク

近日民間相喋々ス外国政府ハ我レニ向テ内地雑
居ヲ要求セリト世間或ハ之ヲ聞キ国家ノ為メニ
大ニ憂フヘシトナスモノアランカ吾輩ハ此ノ制
ヲ以テ最モ喜フヘキノ結果アリトニハントス是
レ強テ奇論ヲ述ヘテ以テ俗耳ヲ驚カサントト欲ス
ルニアラサルナリ現時我邦ニ行フ所ノ居留地ノ
制度ノ非常ニ有害ナルヿヲ思ヘハナリ今請フ居
留地制度ノ非常ニ有害ナル所以ヲ論辯シテ而シ
テ内地雑居ノ利害ヲ講究セン

現今我邦ノ開港市場ニ於テ凡テ居留地ノ設アリ
而シテ東京府内ノ景況タル実ニ内地雑居ヲ默許

セラルヽモノナリ故ニ居留地ノ制度ニ於テ如何ナル弊害アルヤ内地雑居ノ下ニ如何ナル事件発スヘキヤ従来ノ経験ニ於テ多ク吾輩ヲシテ推測スルヲ得セシムルモノアルナリ若シ更ニ之ニ参照スルニ外国ニ顕ハレタル事跡ヲ以テセハ吾輩ヲシテ十分ニ其利害ヲ詳悉セシムルニ足ルモノアラン蓋シ我日本帝国ヲシテ外国商高ヲ行フ丁ナカラシメハ碧眼紅毛ノ族ヲシテ一歩モ此陸地ヲ踐ムナカラシメテ可ナルヘシ然レトモ既ニ商高和親ノ只クヘカラサルヲ知リ我カ貨物ヲ外国ニ賣リ其智識ヲ我国ニ買フノ場合ニ至テハ常ニ流舶ノ上ニ在リテ事ヲ辦セハ決シテ地上ニ登ルナカレトハ明言スヘカラサルナリ必スヤ之ニ家屋ヲ建ツルヲ許シ之ニ婚姻喪祭ヲ行フヲ許シ其国俗ニ従フテ営生スルヲ許サヽルヘカラサルナリ是ニ於テ居留地ヲ設クルカ内地雑居ヲ許スカノ疑問発セサルヘカラス居留地ノ制ハ外国人民ヲシテ一処ニ團結シ蕃殖セシムルカ利カ将タ散在シテ生活セシムルカ利カ論者或ハ曰ク若シ内地雑居ヲ許スニ於テハ外国人民ノ滔々トシテ我邦ニ渡来スル恰モ退散ノ時到リテ官吏ノ諸官有門内ヨリ吐出スルカ如クナルヘシ果シテ然ラハ我カ敗主ハ其資本ヲ用フル所ナク我カ職工ハ其技ヲ施ス所ナカル可シト是レ杞憂ノミ空想ノミ外国

人民ノ我邦ニ渡来スル心ス我カ商品ヲ買ハンカ
為メカ将タ其物産ヲ賣ラント欲スルノ精神ニ出
ツルカノ二者ニ過キス我カ商品ノ増加スル決メ
急遽ニ期ス可ラス況ンヤ我カ人民ノ外国ノ貨物
ヲ買フヿ豈一朝ニメ増加スルノ理アラシヤ然ハ
則チ内地雑居ヲ許スノ後外国人民ノ我邦ニ渡来
スルモノ必ス従前ヨリ増加スルモノアルヘシト
蓋モ決シテ大浪怒濤ノ俄ニ堤ヲ破リテ浸入スル
カ如キヿアラサルヤ明カナリトス故ニ居留地ト
内地雑居ノ利害ヲ比較スルニ於テハ唯タ現時ノ
如ク團結セルモノトシテ散在セシムルモノ
トヲ比較スルヲ以テ是レリトナスナリ其利害如

何ソヤ外国人ヲシテ團結シテ営業シ且ツ蓄殖セ
シムルニ当リテ有害ノ結果アルモノニアリ一ハ
政治上ニ属シ一ハ商業上ニ属ス請フ先ツ政事上
ヨリ論辨セン
政事上ニ於テ有害ナル事実アルヿハ吾人之ヲ羅
馬印度及ヒ呂宋ニ於テ見ルヲ得ヘシ夫レ羅馬兵
ノ「アルプス」山ヲ越ヘテ北方野蠻ノ人民ヲ征服ス
ルヤ其民猛獰ニメ之ヲ制御スルノ術甚タ難シ茲
ニ於テ殖民地ヲ處々ニ設置シ之ヲ廻ラスニ城砦
ヲ以テシ羅馬人民ヲ其内ニ居住セシメテ以テ其
民ヲ鎮壓セリ恰モ我国鎌倉府ノ始メ守護地頭ヲ
国内荘園ニ置キテ以テ奸盜ヲ制シタルト一般ナ

リ故ニ後世北類ノ殖民ヲ称シテ羅馬殖民ト云フ
蓋シ創佛ノ精神ヲ含蓄スルモノナリ彼ノ居留地
ヲ設ケ以テ外国人ヲシテ其内ニ蓄殖セシムルヿ
素ト通商ノ目的ニ出ツルト雖モ其強大ナルニ及
ンテヤ何ソ之ニ異ナランヤ遂ヒ其土地ノ所有権
ハ我ニアリトスルモ一区畫ノ内ハ則チ国権ノ及
ハサル所トシテ恰モ外国ニ割與シタルト同一
ナリ若シ一旦兵端ヲ開クニ至ラハ彼シ必ス之ニ
拠リテ以テ糧食兵器ヲ貯藏シ海陸相應シテ漸ク
内地ヲ侵略セントスヘシ印度帝国ノ滅スル実ニ
欧人等カ其要港ヲ割拠シテ其咽喉ヲ扼シタルニ
因ルナリ吾輩嘗テ新井白石ノ互市権場ヲ論ス

ルヲ見ルニ曰ク
西洋諸蠻盤拠古俚麻剌加瓜哇呂宋等国皆以利
誘之也洋舶載貨喝以珍奇請置権場於要地以通
互市夷中固安于無恙而其開防不厳託盗賊水火
願築土墻以護貨物既和内築堡壁外分其化成隱
若一敵国矣夫利之所在権之所敵富者為之貨殖
貧者藉之衣食恩與威行皆其私人攘臂一呼應声
四起轉而為主反掌而已南方之俗古称簡慢利孔
一開奸許百出真是七日而渾沌死矣
茲ニ互市権場ト称スルハ即チ今ノ居留地ヲ云フ
ナリ内堡壁ヲ築キ外屯戍ヲ分ツトハ即チ所謂
ノ殖民地変シテ羅馬殖民制ト為スノ易キヲ云フ

ナリ白石氏ノ活眼ナル早ク既ニ其弊害ヲ看破ス
ルモノアリ然レ𪜈当時通信未タ自由ナラス其説
ク処南方野蠻ノ島弘ニ過キス若シ夫レ印度海濱
ニ国スル数億万ノ国民カ大約皆北居留地ノ強大
ヲ致スニ因リテ討滅セラレ一タヒ討滅セラレタ
ル後全ク之ニ因リテ鎮靡セラル、ヿヲ想察セハ
豈失レ寒心セサル可ケンヤ蓋シ東洋ノ諸国久シ
ク専制ノ治下ニ在リ其民政治上ノ自由ノ何物タ
ルヲ解セス是ヲ以テ或ハ祭ニ山車ヲ出シ或ハ大
火ヲ消スカ如キ挙措ニ於テハ共同ノ力ヲ尽スヿ
極メテ驚クヘキモノアリト雖𪜈政事上ノ事ニ至
テハ嘗テ意ヲ注クモノアラサルナリ而レテ偶々

人民ノ政事上ニ注意スルヿアレハ政事家モ亦稍
レニ遭逢スル事件ナルカ故ニ非常ノ恐懼ヲ抱キ
之ヲ鎮靡スルヿ極メテ厳ナリ此事漸ク俗ヲ為シ
終ニ政事上ノ変革ヲ見ルヿ對岸ノ火ヲ観ル如キ
ニ至ル其民ニシテ此クノ如シ他ノ自由ノ国民来
タリテ其要港ニ蟠居シ貨財ノ權ト兵力ノ精トヲ
以テ其国ヲ奪ハントスル欲ス何ノ難キカ之アランヤ
是レ居留地ノ制ノ政事上ニ於テ恐ルヘキ弊害ア
ルモノナリ
居留地ノ制ノ商業上ニ有害ナル所以ハ常ニ通商
取引ヲシテ円滑ナラシメサルヿ是ナリ蓋シ交易
ノ売買雙方ヲ利益スルヿハ経済ノ理ヲ争フヘカラ

サル所ナリ然リト雖モ或ハ職工ノ聯合シテ傭主ヲ要シ其賃銀ヲ増加セシムルコトアリ或ハ傭主ノ一致シテ職工ノ賃銀ヲ減ケセントスルコトアリ其間情誼ノ常ニ親密ナラサルモノアルナリ是レ交易ハ賣買雙方ヲ利益スト雖モ更ニ其自ラ受クル所ヲシテ他ヨリ多カラシメントスル人情ヨリ発スルモノトアラスヤ人情常ニ此クノ如クハ此兼度ハ時ニ顕ハレサル可カラス唯タ平時ハ利害相和ス故ニ発セサルノミ故ニ現今各国製造主ト御賣高トノ関係ヲ見ルニ吾輩ハ此クノ如キ葛藤ノ多ク発スルヲ聞カサルナリ伊丹ノ酒造人ハ聯合シテ新川新堀ノ酒問屋ト相争ヒシヲ聞カ

サルナリ伊万里ノ陶器製造人ハ一致シテ東京ノ陶器商ト相争ヒシコトナキナリ特ニ相争ハサルノミニアラス巨萬ノ商品ヲ之ニ托シ賣上ケノ上ニ其勘定ヲ拂フヲ甘スルニアラスヤ然ル所以ノモノハ何ウヤ多年ノ取引ハ信用ヲ其間ニ醸成シテ彼我ノ情意相和スル為メナラスヤ然ルニ我カ外国貿易ニ至テハ常ニ此クノ如キ円滑ナル取引ヲ見ルヿナク我カ蚕種紙若クハ生糸ヲ賣ル者ハ之ヲ横濱ニ携帯スルノ前ニ於テ豫メ外国商館ニ賣渡スノ約定ヲナスモノアラサルナリ必ス之ヲ買フモノアル可シト想像シテ之ヲ運搬スルナリ而シテ其横濱ニ来ルヤ之ヲ商館ニ送リ其拝見ヲ

蒙ムり其ペケヲ甘喫シ本国ノ電信到来ノ後ニ至
テ始メテ賣買ノ約定ヲナスヲ得ルナリ是ニ於テ
カ我ハ聯合シテ賣ラサルヿヲ盟約スルヿアリ彼
レ亦聯合シテ買ハサルヿヲ公告スルヿアリ宛モ
両軍相對シテ輸贏ヲ決セント欲スルモノヽ如シ
然ル所以ノ者ハ何ソヤ人種風俗相異ナルカ為メ
ニ自カラ情味ノ相投セサルニ基クモノアル可シ
ト雖ヒ居留地ノ制大ニ内外ノ和親ヲ隔離シ聯合
シテ事ヲ行フニ便ナルカ為メナラスヤ若シ夫レ
外国商人ヲシテ我内地ニ雑居セシムルヿ恰カモ我
東京府内ニ商賈ノ雑居スルカ如クナラシメハ朝
暮相會シ寒暑相問ヒ自ラ人情ノ其間ニ発スルア

リ風俗亦相和シ彼ノ我ヲ見テ蔑如スルヿ必ス今
日ノ如クナラサルヘシ然レハ則チ従来相對峙メ
生糸ノ相場ヲ定メタルカ如キ陋習ハ自ラ退去シ
内地ノ諸貨物ノ取引ト同様ニ円滑ナル賣買ヲ見
ルニ至ランヿ必セリ現今ハ然ラス数々内外ノ葛
藤ヲ招ク是レ居留地ノ制高業上ニ於テ恐ル可キ
弊害アルモノナリ故ニ吾輩ハ商業取引ノ実況ニ
於テモ居留地ノ制度ノ有害ナルヿヲ信シ速ニ内
地雑居ノ美制ヲ見ンヿヲ今ヨリ希望スルナリ
然リト雖モ之ヲ許可スルニ当リテ種々ノ方法ア
リ第一ハ外国人民ニ許スニ治外法権ヲ以テスル
ヿ現時ノ如クニシテ内地ニ雑居セシムル

モノナリ第二ハ五合裁判ノ制ヲ設ケ外国ノ裁判官ヲシテ我カ法廷ニ参坐セシメテ而シテ内地ニ雑居セシムルモノナリ第三ハ彼ヲシテ我法律ノ下ニ従ハシメ之ニ許スニ土地賣買ノ權会社創立ノ自由其他公權ヲ除クノ外一切ノ自由ヲ以テスルヿ宛モ我カ内地人民ト同一ナラシメテ而メ内地ニ雑居セシムルナリ此ノ三法ノ内吾輩ノ希望スル所ハ最後ノ方法ニアリ止ムナクンハ第一法ヲ執ラン第二法ノ如キハ決シテ行フヘカラサルナリト

以上ニ記者ノ所論ヲ概括シテ之ヲ謂ハンニ時事記者ハ宣ヲ勢ニ飯シ今後内地ニ在テ鉄道ヲ架設セハ政府縱ヒ外人ノ雑居ヲ禁スルモ雑居ノ実ハ漸ク行ハレ遂ニ制ス可カラサルニ至ラム故ニ今我ヨリ進ンテ雑居ノ門ヲ開クニ若カス況ンヤ今日ニ在テハ西洋ノ人内地ニ入ルモ我邦ノ高利ヲ攫拿シテ恣ク之ヲ奪フノ恐ナリ又其一手ヲ以テ内地ノ産業ヲ壓断スルノ患ナシ是ヲ以テ早ク西洋人ヲ延接シテ内地人民ノ懶夢ヲ警破シ西洋ノ文明ヲ採テ西洋人ト交際競争スルノ覚悟ヲ為サシム可シト謂フカ如ク朝野記者ハ現時居留地ノ制ハ外国人ヲシテ團結メ営業シ且ツ蕃殖セシムル者ナルヲ以テ政事上ニ在テハ外人我ヲ窺窬スルノ患アリ商業上ニ在テハ貨物ノ取引ヲ因滞ナラシメサルノ患アリ其制度甚我レ

に危害アルヲ以テ速ニ内地雑居ノ美制ヲ見ルニ到ルヲ希望スルノ意ナルヲ見ル二託者ノ説ク所或ク我カ日本ニ切実ナラサルニ非ラス然レトモ時事託者ノ治外法権ノ撤否ヲ問ハスシテ一様ニ内地ノ雑居ヲ許サント放言シ朝野託者ノ已ムコトナクンハ治外法権ヲ撤セサルモ猶ホ且ツ内地ノ雑居ヲ許サントト欲スルニ至テハ余其虚心平気ニ過クルヲ驚カサルヲ得ス治外ノ法権ヲ撤スルモ猶ホ或ハ内地雑居ノ利害ヲ判シ難シ況ンヤ之ヲ存シテ之ヲ許サントト欲スルニ至テハ余其日本ニ大害アルヲ知ルナリ託者ノ虚心平気ニ過クル斯緊切要事ヲ閑等ニ看過セシハ抑モ是レ惜シムヘシ蓋シ惟フニ一朝三十年来ノ禁断ヲ解キ外人ニ許スニ内地ノ雑居ヲ以テセハ既ニ我邦ニ渡航スルモノハ其適意ノ地ヲ擇テ之ニ住シ或ハ商業ヲ営ミ或ハ工場ヲ起シ以テ其生意ヲ始ムヘシ又其来タ来ラサル者ハ之カ風ヲ聞テ我カ邦ニ渡来シ其業務ヲ創ムヘシ若シ果シテ然テンヤ彼我金銭ノ貸借日々ニ多キヲ加ヘ彼我貨物ノ賣買月々ニ其数ヲ増シ結婚ノ事債雇ノ事時ヲ追テ繁ク其極ヤ之カ曲直ヲ法庭ニ訴フル者多キニ至ラン顧フニ斯時ニ当テ治外ノ法権ヲ存續シ之ヲ本邦ニ行ハシメハ彼レ外人之ヲ恃テ四方ニ横行シ遂ニ我カ内地ニ在テ無数ノ独立国ヲ現出スルノ害ヲ生スルニ至ラン饒ニ彼ヲシテ横行セシメサルモ治外ノ

法権ニシテ存スルアラハ其契約ヲ破リ其罪ヲ犯ス
ニ及ンテ我カ法司ハ自ヤラ之ヲ処断スルヲ得ス依
然領事ニ就テ其判決ヲ乞ハサルヲ得サルヘシ顧フ
ニ若シ領事廳ニシテ我カ邦ノ各所ニ布置ニ至ル所
之カ訴訟ヲ聴クアラシメハ猶ホ或ハ之ヲ忍フヲ得
ム然レトモ是レ事実ニ於テ到底為スヲ得ヘカラサル
ノ事項ニ属ス是ヲ以テ外人ニ係ル訴訟アル毎ニ我
カ人民ハ遠隔ノ領事廳ニ就テ其曲直ヲ正スノ労ヲ
取ラサルヲ得ス其不利不便又タ如何ソ哉加之彼我
法律ノ相同シカラスシテ我レノ損害ヲ蒙ムルモノ
頗ル多フク其弊ノ大ナル今ヨリシテ豫想スヘカラ
サルモノアラン然ルヲ猶ホ治外法権ノ存廃ハ問フ
ヲ要セス一意ニ内地ノ雑居ヲ許スヘシト謂フニ至
テハ虚心平気モ亦タ甚シト謂ハサルヲ得サルナリ
況ンヤ内地雑居ノ厳禁ハ元ト偶尓ノ事ニ成ルト雖
モ今日ヨリシテ之ヲ見レハ実ニ我カ帝国ノ権利ヲ
回復シ其利益ヲ回収スルノ唯一典物ナルカ如シ然
ルヲ我レ得ル所ナクシテ之ヲ與フ抑モ是レ愚ナリ
ト謂フヘシ報知記者嘗テ斯事ヲ論シテ曰ク
内地雑居ノ禁一ニ解クレハ條約決シテ改正ス可
ラス外人ノ専横決シテ制御ス可ラス独立国ノ体
面決シテ回復ス可ラサル也今日條約改正上一点
ノ望アル所以ノ者ハ畢竟内地雑居ノ禁尚ホ存ス
ルカ為メノミ我レ締盟諸国ニ求ムル所アレハ諸

国モ亦我ニ求ムル所アルカ為メノミヒリ邦国ノ
交際上ニ於テ對等ノ位地ヲ保ツヿヲ得ルハ其求
ムル所粗ホ權衡ヲ均フシ彼此太タシキ軽重ナキ
ニ因レリ若シ一方独リ求ムル所有テ他ノ一方毫
モ求ムル所ナクンハ其交際固ヨリ對等ナル能ハ
ス而シテ本邦ノ今日締盟諸国ニ對シテ求ム可キ
所ハ海関税則ノ改正也治外法權ノ廃止也其求ム
ル所決シテサナシト云フ可ラス此時ニ方リ彼レ
若シ毫モ我ニ求ムル所ナクンハ我レ設ヘ理ヲ以
テ之ヲ求メ情ヲ以テ之ヲ求メ独立国ノ威權ヲ展
シテ之ヲ求ムルモ彼レノ專横自恣ナル到底之ニ
應スル者ニ非スト雖モ幸ニシテ内地雜居ノ厳禁

尚ホ存シテ外人ノ縱横内地ニ通商スルヲ許サ、
ルアリ此禁制ハ外人ノ最モ廃止セシヿヲ希望ス
ル所ノ者ニシテ縱横内地ニ通商シテ奇利ヲ壟断
スルハ亦其最モ希望スル所ノ者也故ニ我レ一事
ヲ求ムル毎ニ彼レ必ス之ニ對シテ内地雜居ノ解
禁ヲ求ム我レ若シ我カ求ムル所ヲ得サルニ方テ
此禁ヲ解ケハ彼レ亦我ニ求ムル所ナフシテ我ハ
則チ彼ニ求ムル所アリ苟モ此ノ如クンハ我カ国
力能ク彼ヲ威服スルノ日ニ至テ條約始テ改正ス
可キノミ我カ国力若シ彼ヲ威服スルノ程度ニ達
セサル以上ハ我ノ之ヲ求ムル如何ニ切ナルモ彼
レ決シテ之ニ應セサル可シ是ヲ以テ余輩ハ将ニ

云ハントス内地雜居ノ禁ハ最後マテ之ヲ保持シテ我カ権理面目ヲ回復スルノ機当ニ俟セサル可ラス機当一ヒ彼レノ手ニ復スレハ彼レ遂ニ其我ニ負フ所ヲ還償セサル可シト

先ツ我カ意ヲ得タリト謂ウヘシ実ニ我カ日本ノ人民ハ永ク斯国ノ独立ヲ維持セント欲ス是ヲ以テ我レ今外人ノ其怯ヲ齎ラシテ内地ニ旅行シ若クハ雜居スルヲ許スカ如キ過大ノ虚心平気ヲ有セサルナリ

時事記者ハ本年六月十日ノ新紙ニ於テ大ニ前説ヲ調停スルノ説ヲ掲ケ吾人ヲ満足セシメリ但余ヤ既ニ五月尽日ニ在テ此本文ヲ筆了ス故ニ今之ヲ改メス嗚呼我カ日本人民ハ今徒ラニ外人内ニ入ルヲ嫌悪スルモノニ非ラス但タ其自国ノ法律ヲ齎ラシテ我カ内地ニ行ヒ其横行ヲ肆ニスルヲ恐ムノ故ニ彼レニシテ治外ノ法権ヲ全撤シ我カ法律ニ服従スルヲ証明スルニ非ラサルハ我レニ於テ決シテ内地ノ旅行ト其雜居ヲ許スヲ考スヘカラサルナリ惟フニ当局者ハ斯要求ヲ聞テ如何ノ感想ヲ発セン乎必ス其鋭面皮ノ厚キヲ憤ホルナラム

之ヲ要スルニ世ノ傳ヘテ芽五国商議ノ時外人ノ要求セントス為ス事目ハ皆ナ我カ日本ヲ愚弄シ且ツ其専肆ヲ極ムルノ甚シキ者ナルヲ以テ我カ日本人民ハ断シテ之ヲ許スヲ為サス否ナ仮令ヒ之レカ為メ

條約ノ改正ヲ中止スルノ不幸アルモ決シテ其要求ニ應スルヲ為サヽルナリ

第三節 追託ノ報ニ拠テ之ヲ考フレハ改正ノ商議ハ既ニ第六回ニ及ヘルカ如シ然レトモ其要求ノ事目ニ就テ之ヲ考フルニ外人ノ專肆猶ホ來タ改マラス永タ吾人ヲ厭カレムルニ足ラサルナリ顧フニ彼ニシテ治外ノ法權ヲ全撤スルアラン乎我レニ於テ始メテ互相ノ利益ヲ分與スルノ意ヲ起サム彼レ若シ猶ホ治外法權ヲ存続シ之ヲ其往タ所ニ齎ラスアラン乎沿海ノ貿易内地ノ旅行我レ決シテ其自由ヲ與フルヲ得サルナリ今日ニ当テ外人ニ許スニ沿海貿易ノ自由ヲ以テセハ我カ商船ノ進歩自カラ阻滞シ遂ニ其廢絶ヲ來スニ至ラン豈ニ慎マサル可ケンヤ故ニ吾人今之ヲ許スヲ得サルナリ

第六節 條約改正ノ方策ヲ叙ス

外人ノ要求ハ吾人勢ヒ之ニ應スルヲ得ス然レトモ條約ノ改正ハ吾人ノ遂ニ自カラ嚴ム能ハサル者ニシテ勢ヒ之ヲ中止スヘカラス故ニ深ク其方ヲ講シ之カ志望ヲ達スルハ又誠ニ已ムヲ得サルカ如シ依テ進ンテ之ヲ改正スルノ方策ヲ求ムルニ未タ絶無ト謂フヘカラス要スルニ其順序ヲ失セサルヲ是レ務ムヘキナリ抑モ事目ノ輕重ヨリシテ之ヲ論スレハ治外法權ノ撤去ヨリ重キハ莫シ然レトモ外交商

議ノ難易ヨリシテ之ヲ云ヘハ諸國共同ノ訂約ニ起
因スルノ難事ヨリ難キハ莫シ治外ノ法権ヲ撤去ス
ルノ事税権ヲ回復スルノ事素ヨリ易事ニ非ラス然
レトモ米國ノ如キ伊太利ノ如キハ大ニ譲ル所アルカ
如シ然ルヲ我レ猶ホ其望ミヲ全フスルヲ得サルハ
実ニ諸國共同ノ合意ヲ得ルノ難キニ在リ既ニ芽ニ
茎ニ論スルカ如ク各國ノ間各々其特種ノ利害アリ
テ彼此互ニ相同シカラス故ニ各国ヲ異別シテ各自
ニ其條約ヲ改正セハ特種ノ利害特種ノ利害ヲ以テ
相償フヲ得ス以テ我カ志望ヲ達スルヲ得ム然レトモ
各國ヲ共同シテ之カ改正ヲ商議セハ彼此ノ利害相
集テ一團ヲ為シ遂ニ我カ志望ヲ全フスルノ途ヲ杜
絶スルニ至ルヘキナリ是レ元ト勢ノ必至ナル者甚
タ怪シムニ足ラサルナリ是ヲ以テ我カ條約ヲ改正
シ正當ノ利益ヲ我ニ占メ其当有ノ権利ヲ全フセン
ト欲セハ勢先ツ各国各別ノ訂約ヲ為スニ用意セサ
ルヘカラス苟モ之ヲ措ケハ余我カ條約ヲ改正スル
ノ良図ナキヲ知ルナリ然レトモ各国各別ノ訂約ヲ為
スノ前ニ当テ為スヘキノ豫備一ツアリ曰ク周ク殊
典ヲ各國ニ及ホスノ特約ヲ廢ス是レナリ既ニ芽ニ
茎ニ説クカ如ク我カ修好條規中明カニ載セテ殊典
ヲ施シテ之ヲ一国ニ與フレハ必ラス之ヲ擴ケテ其
余他ノ諸国ニ及ホスヘキヲ約ス故ニ偶々甲國ニ與
フルニ特種ノ利益ヲ以テシ以テ我カ利ニ交換スル

アラハ乙国忽チ其條約ニ拠リ我ヲ利スルナクシテ
其特典ニ均霑スルヲ求ムルニ至リ其極ヤ各国ヲシ
テ各別ノ條約ヲ結フノ念ヲ薄カラシム況ンヤ斯非
理ノ條項ハ我カ帝国自主ノ行為ヲ束縛スルモノニ
シテ元ト修好ノ正則ニ非ラス故ニ我レ先ツ各国ニ
照会シテ美国ノ條約ニ在テハ第廿三條米国ノ條約
ニ在テハ第九條佛蘭西ノ條約ニ在テハ第十九條北
部日耳曼聯邦條約ニ在テハ第十九條魯細亜ノ條約
ニ在テハ第十六条白耳義ノ條約ニ在テハ第十九条
伊太利ノ條約ニ在テハ第十九条墺斯利ノ條約ニ在
テハ第廿条丁抹ノ條約ニ在テハ第十九條和蘭ノ約
條ニ在テハ第廿九条是班牙ノ條約ニ在テハ第廿三条

瑞典諾威ノ條約ニ在テハ第廿六条ニ所載スル殊典
均霑ノ條項ヲ削除スルノ議ヲ潤キ其合意ヲ求ムヘ
シ各国若シ之ヲ肯諾セサルアラハ我レ更ニ要求ノ
点ヲ停調シ夫ノ特典均霑ノ条目ニ就テ新ニ一通ノ
覚書ヲ製シ所謂ル特典ノ均霑ハ平等ニ関税ヲ賦課
スルノ意ナルヲ明ニシ其挙行ノ区域ヲ畫限セシコ
トヲ求ムヘシ各国又若シ之ヲ肯諾セサルアラハ我
レ又タ其要求ヲ更メ特典均霑ノ条目ニ加フルニ一
行ノ但書ヲ以テシ但タ特典ヲ許可スルニ当テ特約
アルモノハ其特約ヲ義諾シタル時ニ於テ之ヲ許可
スヘシト為サンコトヲ求ムヘシ各国猶ホ之ヲ聞カ
サレハ我レ又更ニ彼我ノ條約ニ加フル三箇ノ新条

ヲ以テシ甲ノ訂約国ニシテ我日本ニ与フルニ特種
ノ利益ヲ以テセハ尓餘ノ諸国モ均シク之ヲ日本ニ
與ヘサシクモ猶豫セサルヲ約センコトヲ求ムヘシ
是レ彼我互相ノ利益ヲ謀ルモノニシテ元ト非望ノ
請ニ非ス是レハ　政府ト雖モ遂ニ之ヲ拒絶
スルノ詞ナキニ至ラム顧フニ此二議トシテ各国ノ
合意ヲ得ハ更ニ進ンテ各国ニ向テ其條約ヲ改正セ
ンコトヲ要求シ吾自ニ之カ商議ヲ開クヘシ而シテ其
間ニシテ我カ要求ヲ聽キ治外ノ法権ヲ撤シ收税ノ
全権ヲ還スアラハ之ニ共フルニ特種ノ利益ヲ以テ
シ或ハ内地ノ雜居ヲ許シ或ハ財産ノ所有ヲ允シ以
テ之ニ酬フヘシ又其国ニシテ未タ治外ノ法権ヲ撤
セサルモ収税ノ全権ヲ還スアラハ之ニ酬ユルニ其
間ニ向テ輸出スル貨物ノ出港税ヲ減少スルノ特典
等ヲ以テスルヲ約スヘシ又其間ニシテ執拗ニシテ
曉ラス我カ要求ヲ聽カサルモノアラハ一切改正ノ
商議ヲ止メ其自カラ曉ルノ時ヲ待ツヘシ顧フニ此
ノ如クニシテ彼此ノ区別ヲ立テ其待ツ所以ヲ殊ニ
セハ夫ノ執拗ニシテ我ニ譲ラサル者必ス遂ニ其不
利ヲ曉リ十年ヲ出スシテ其條約ヲ改正シ畢ハルニ
至ラム余其方策ノ平穏ニシテ危険ナク因滑ニシテ
行ヒ易キヲ知ルナリ（本文ノ事猶ホ其細故ヲ説クヲ
要シ之カ手段ノ如キハ最モ密論ヲ要ス然レトモ是レ
皆ナ外交ノ謀畧ニ属シ元ト之ヲ秘匿スルヲ要ス況

シヤ其施行ノ順序ニ至テハ臨機應変ノ妙用ヲ貴ヒ
始メヨリ之ヲ一定スヘカラス唯タ局ニ当ルノ日能
ク之ヲ施スヲ得ル耳故ニ余今其大躰ヲ説キ故ラヒ
其細故ニ及ハス以テ其革ヲ茲ニ止ム蓋シ又タ止ム
ヲ得サルニ出ルナリ)
之ヲ要スルニ條約ノ改正ハ吾人ノ熱意シテ希望ス
ル所ニシテ其要六個アリ其事ノ重キ者ヨリシテ之
ヲ云ヘハ治外法權ノ撤去ヲ以テ茅一トシ収税權ノ
回復ヲ以テ其次ニ位シ漸ク其他ニ及ホスヘシト雖
モ外交高議ノ順序ヨリシテ之ヲ謂ヘハ茅一ニ殊典
均霑ノ條項ヲ削除シ茅二ニ各國各別ニ條約ヲ改正
スルノ議ヲ開キ漸ク次ヲ追テ修好條規ト通商條規

ノ分離ニ及ヒ遂ニ進シテ収税權ノ回復治外法權ノ
撤去等ニ及ホスヘシ豈ニ其事ノ重キヲ思ヒ直ニ治
外ノ法權ヲ撤去センヲ希ヒ徒ラニ姑息ノ詭策ヲ施
シ以テ言フヘカラサルノ禍害ヲ後世子孫ニ貽スヘ
ケンヤ嗚呼條約改正ノ問題ハ重且ツ大ナリ今日ノ
所決心ラス千百歳ノ禍福ヲ定メ若シ其高議ニシテ
其当ヲ失セン乎天下ノ事一タヒ去テ復タ回ラスヘ
カラス遂ニ此旭光ノ帝国ヲシテ半月帝国ノ貮舞ヲ
為サシムルノ恐アルニ至ラム故ニ我カ日本ニ生シ
我カ日本ノ独立ヲ遠永ニ希フ者ハ深ク謀テ條ニ其
利害ヲ較ヘ以テ慶福ヲ我カ後世子孫ニ貽サヽルヲ
得ス豈ニ一時ノ客気ヲ以テ軽シク其事ヲ処シ以テ

禍害ヲ千百歳ノ後ニ傳フヘケンヤ是レ本論ノ已ム
ヲ得サル所以ニシテ斯著実ニ我カ帝國ヲ思フノ至
情ニ成ル